

平成 28 年度 第 4 回（震災後 第 69 回）

陸前高田市保健医療福祉未来図会議

平成 28 年 8 月 19 日(金) 13:30～15:30

陸前高田市役所 4 号棟第 6 会議室

次 第

◆テーマ

「 NPO のつよみを活かした地域づくり 」

1 あいさつ

陸前高田市 民生部長兼保健課長 菅野利尚

2 内容

（1）未来図会議のめざすこと ～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

（2）報告（話題提供）

報告 NPO のつよみを活かすとは？ ～知ってつながる NPO～

陸前高田まちづくり協働センター センター長 三浦まり江氏

報告 地域の実情に応じた地域支援事業の展開 ～ある一例として～

陸前高田市 民生部保健課 包括支援係長 佐藤咲恵

（3）グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

⇒テーマ：NPO の力、市民の力、行政の力…が、どうするとつながれますか

・地域、NPO、関係機関、専門機関、行政等それぞれのつよみを活かしながら、人財の再発見と育成を積み重ね、具体的につながるために…

3 その他連絡・アナウンス

・旭神経内科リハビリテーション病院

【事務局：陸前高田市民生部】

※次回（第 70 回）：平成 28 年 9 月 16 日（金）13：30～15：30

◆9 月メインテーマ（仮）：**通いの場づくり ～つながりを持ち続ける理由～②**

…市内町別の「はまかだスポット」の確認、実際にプロット

町別人口・世帯構成、介護認定率等ともあわせて…

◆会場：市役所 第 4 号棟 第 6 会議室

平成28年度の陸前高田市保健医療福祉未来図会議（月1回）の予定

○日程と月別テーマ（予定）

H28年： **10/14（金）第71回**

（仮）子どもからお年寄りまで誰もが集える居場所づくり、コミュニティづくりとは
【出張未来図会議：柝ヶ沢公営住宅集会室（予定）】

11/11（金）第72回

（仮）子育て世代が必要としている支援、切れ目のない妊産婦・乳幼児への支援とは
～子ども・子育て世代への合理的配慮って？～

12/16（金）第73回

（仮）エンド・オブ・ライフケアと地域コミュニティ
～地域でその人らしく最期を迎えるために～

H29年： **1/20（金）第74回**

2/17（金）第75回

3/17（金）第76回

※検討中

○会議の趣旨

住民の生活にかかわる関係者が集まり、住民一人一人の健康で文化的な生活及びノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの実現を目指し、震災のからの復興に向けた地域にとってよりよい体制づくりに寄与し続けられるよう、保健医療福祉分野の視点から中・長期的な展望を議論する。

○大きな方向性

- ・ ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの推進
「はまってけらいん、かだってけらいん運動」の推進
- ・ ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの融合・実践
- ・ 市民・他分野機関との協働、未来図（計画）策定
- ・ 居場所づくり、相互の経験に学ぶネットワークづくり

○陸前高田市保健医療福祉未来図会議メーリングリスト

◆こちらまでお知らせください。

<http://goo.gl/forms/NFUsNqBn3c>

平成28年度 第5回 (震災後69回) 陸前高田市 保健医療福祉未来図会議

平成28年8月19日(金) 13:30~15:30
陸前高田市役所 4号棟 第6会議室

本日(H28.8/19)の会議の概要

◆テーマ

NPOのつよみを活かした地域づくり

H28.7月、8月、9月(シリーズ開催)

…日頃、通り過ぎて見過ごしていたかも知れない
地域の「宝物(活動)」を継続して確認しながら、
これからの元気づくりについて、それぞれでできる
ことを仕掛け続けて行きましょう

前回(H28.7/22)の会議の結果概要①

◆テーマ

通いの場づくり

～つながりを持ち続ける理由～①

※平成28年度未来図会議年間テーマ

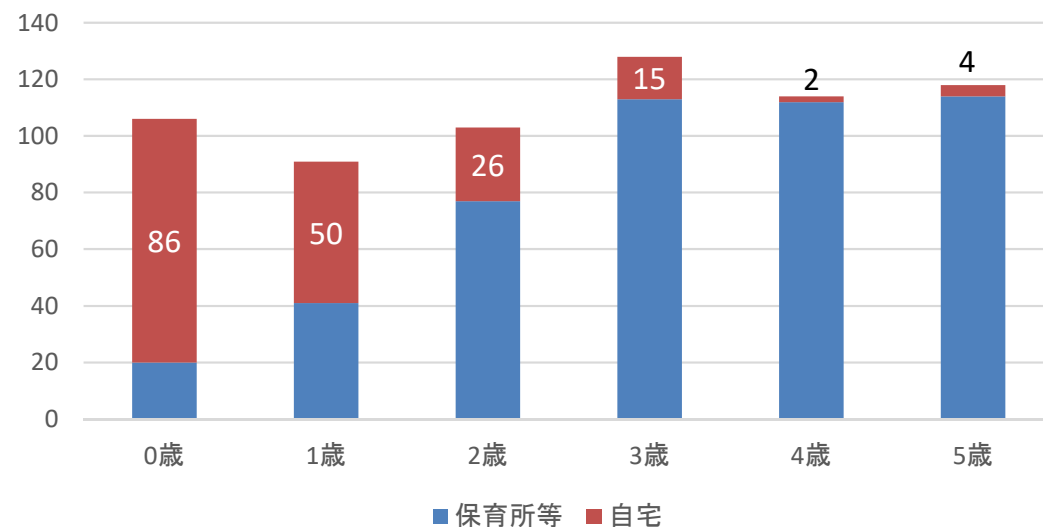
私から始める他人(ひと)ごと意識の解消

～ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの実践～

…につながる地域の通いの場＝はまかだスポットを知ろう

2013.7.19未来図会議

全市



はまかだスポットのマッピング

2016.9月～

横田町

矢作町

竹駒町

米崎町

気仙町

高田町

小友町

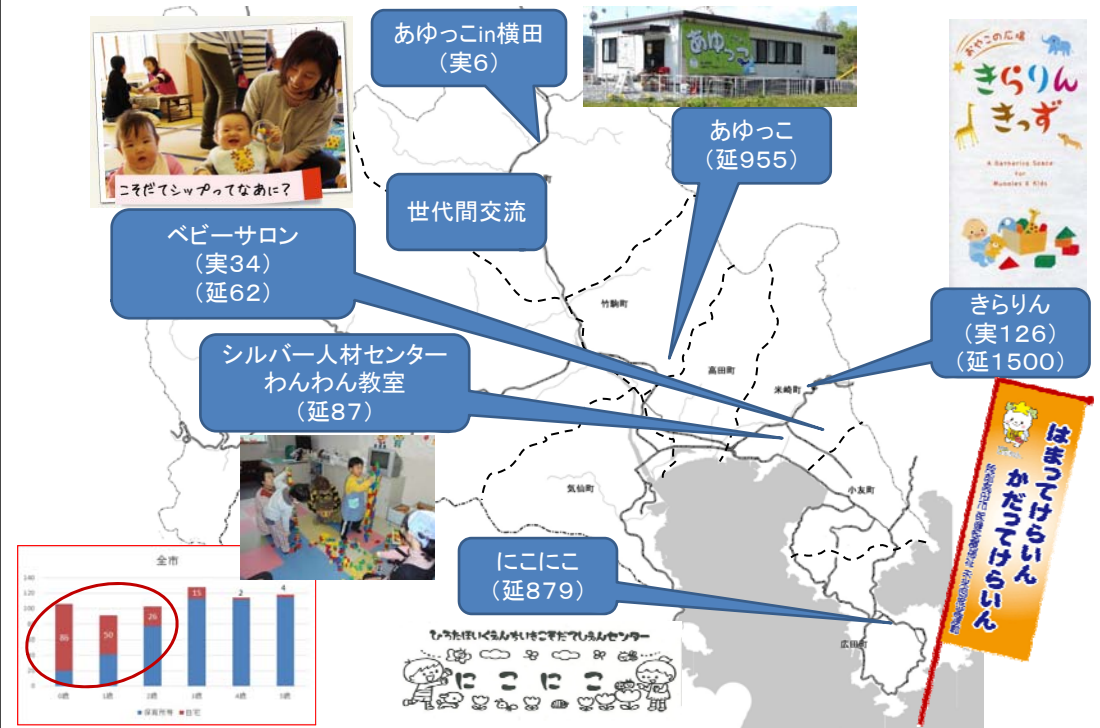
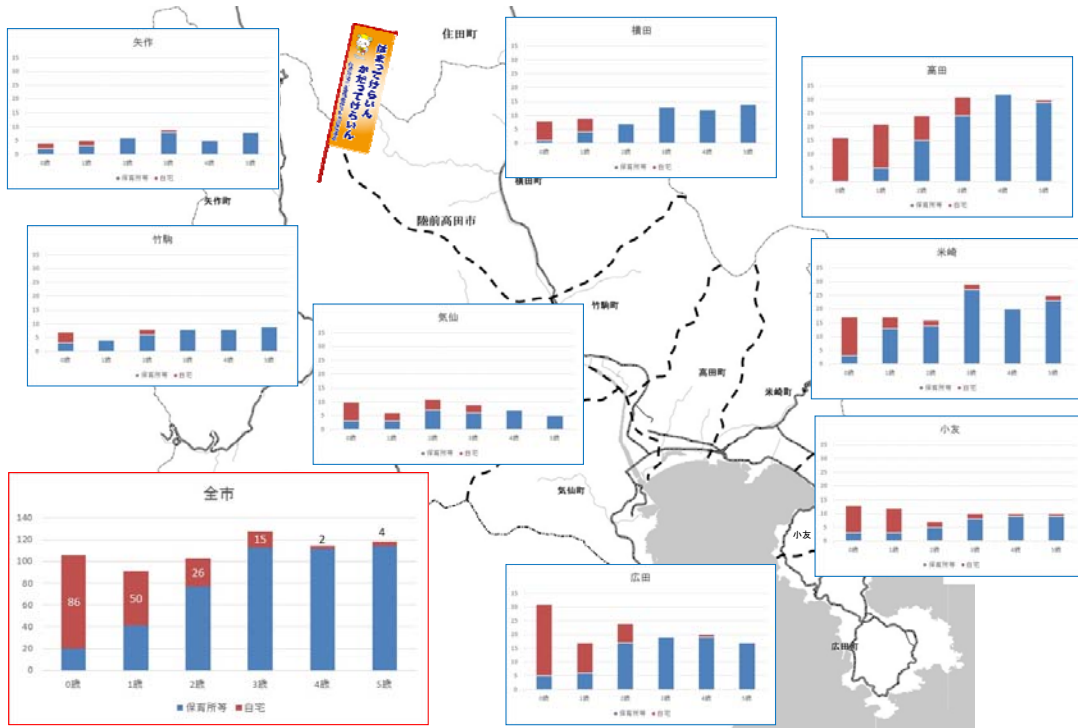
広田町

- 1 インフォーマル(地域の)
7月の未来図会議の例・・
- 2 フォーマル(公的な)
健康担当課だけでなく・・

※はまかだスポット: 地域ではまかだできる通いの場、居場所＝ノーマライゼーションという言葉のいないまちづくり実践の場

・・・市内町別の「はまかだスポット※」の確認、実際にプロット
市内町別の人口・世帯構成の推移、介護認定率の推移
保健事業、生涯学習事業など行政の実施状況
健診結果の状況などと重ねて見ていけないか

2016/8/19



前回（H28.7/22）の会議の結果概要②

◆「きょういく」ところ、「きょうよう」があるところ事例

活動事例① 竹駒町 店舗型通いの場 「ワーカーズコープ」

勝沼雅典さん、古澤光さん

- 直売所を運営しながら、**地域の出会いの場**として活動を継続している（サロン、共同農園、カパンづくりなど）
- 地元の**住民一人ひとりが先生**＝達人となっており、**「福祉」が決して制度の中にとらわれていない**（地域のつよみを活かす）
- 陸前高田市は「お互いさま精神」が強く、店舗があることのつよみを活かしつつ、**誰かどかかめたいという気持ちを大切に**したお互いに支えあえる場づくりをしていきたい

直売所（竹駒）内でのサロン活動

前回（H28.7/22）の会議の結果概要③

◆「きょういく」ところ、「きょうよう」があるところ事例

活動事例② 広田町 住民主導型通いの場

「泊（田端）お楽しみクラブ」藤原紀久子さん

- 市の**介護予防教室をキッカケ**に集り出し、会員が増えている
- 県の支え合い活動助成金の助成を受けて活動している
- 月2回の活動だが、会員に内容は「任せる」と言われている
- 参加者同士の**情報共有の場**となり、これまで参加しなかった人も参加するようになるなどの影響も出てきている
- 目に見えて**元気な人が増えて**おり、励みとなっている

ふりかえり交流会（H28.2月発表）

前回（H28.7/22）の会議の結果概要④

◆「きょういく」ところ、「きょうよう」があるところ事例

活動事例③ 矢作町 男の通いの場

「精米所サロン」 ※ビデオ出演

- ・二又地区の精米所が、**気がつけば精米サロン**となっていた
- ・昔からあり、ここに来れば**地域のさまざまな情報が得られた**
- ・定例活動日があるわけではなく、毎日、**誰でも来てもよい**
- ・「精米サロン」の看板も地域の誰かが設置していった
- ・**普段着で気軽に集まれる**男性にとっても大事な通いの場となっている（実際、男性が多く集まっている）

精米サロン（後方が精米機）



前回（H28.7/22）の会議の結果概要⑤

◆グループディスカッションの声

グループディスカッション

⇒ テーマ：つながりを持ち続けている事例から学ぶこと

①すごいね！すばらしいね！なぜ続いているの？何が大事なの？ ②自分の地域にはないかな？

①すごいね！なぜ続いているの？

・楽しいこと、自然体であること、気を遣わない、先に立つ人の行動、歩いて行けること、特技を活かせること、義務感がないこと、ここちよい人とのつながり、笑顔がある、面白い、できる範囲でやる

②自分の地域にはないかな？

・上浜田地区でのお茶っご会、朝日のあたる家（米崎）、広田地区の俳句の会、小友のノルディック・ウォーキングの会、高田地区の農園活動、近所同士でお茶会を始めた人もいる、旧米崎中仮設住宅におけるボンジュールは移転先でも続くのでは・・・、会員制老人クラブ、社協のサロン、はまらっせん農園など

・・・そこで改めて今月は

◆テーマ

NPOのつよみを活かした地域づくり

本日（H28.8/19）の会議の進め方①

◆タイムスケジュール ～14：20

（１）未来図会議のめざすこと

～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

陸前高田市 地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

（２）報告（話題提供）

報告 **NPOのつよみを活かすとは？ ～知ってつながるNPO～**

陸前高田まちづくり協働センター センター長 三浦まり江氏

報告 **地域の実情に応じた地域支援事業の展開～ある一例として**

陸前高田市 民生部保健課 包括支援係長 佐藤咲恵

本日（H28.8/19）の会議の進め方②

◆タイムスケジュール 14：20～

（3）グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

⇒テーマ： **NPOの力、市民の力、行政の力…（関係機関）**
が、どうするとつながれますか？

- ①NPOとつながっていない理由
不安、不満など、現状・実際の共有から
- ②それを解消していくには

15：15～ 個別アナウンス・周知

未来図会議のめざすこと
～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

陸前高田市地域包括ケアアドバイザー
岩室紳也氏

未来図会議のめざすこと

～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

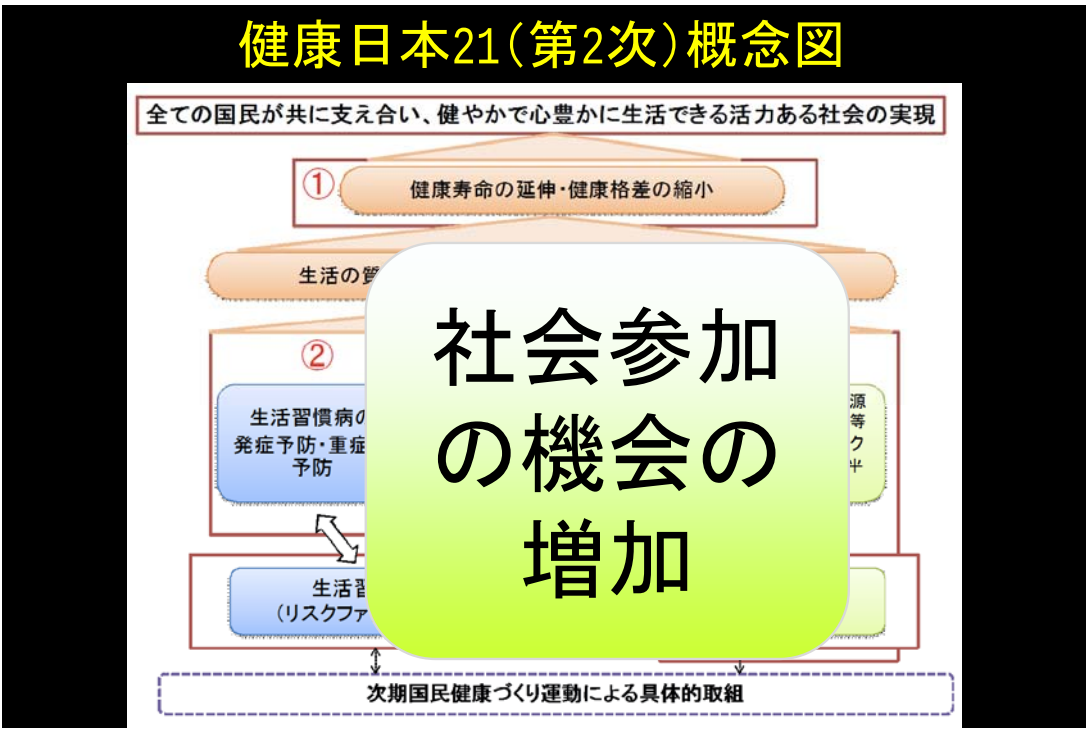
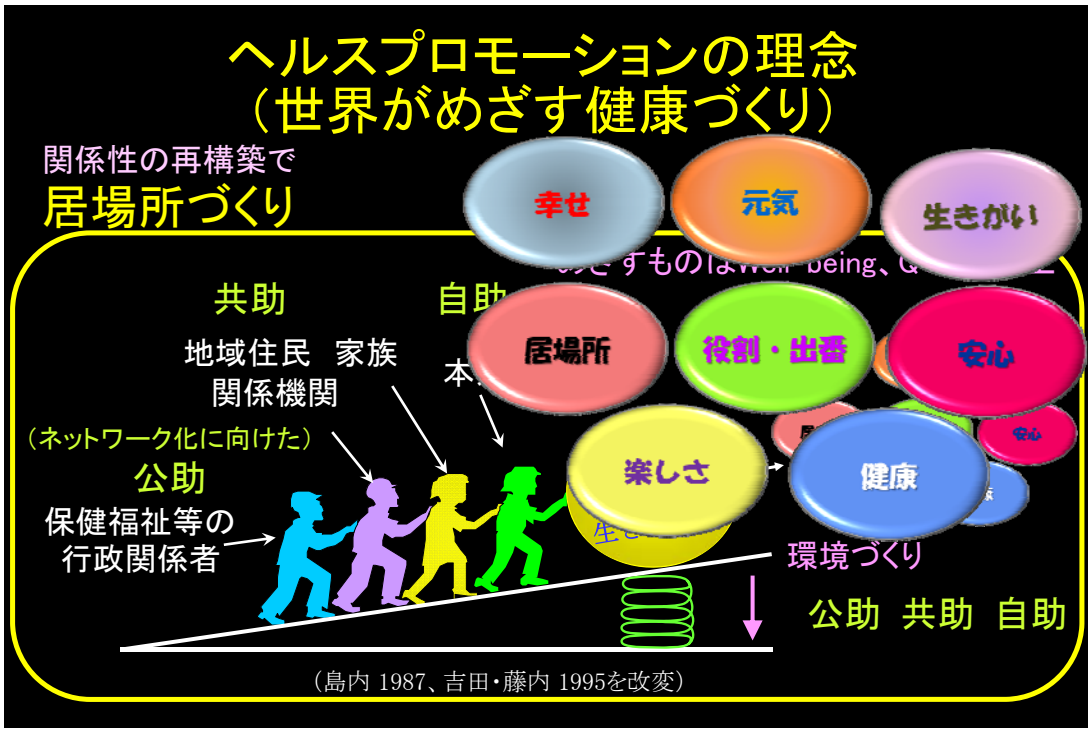
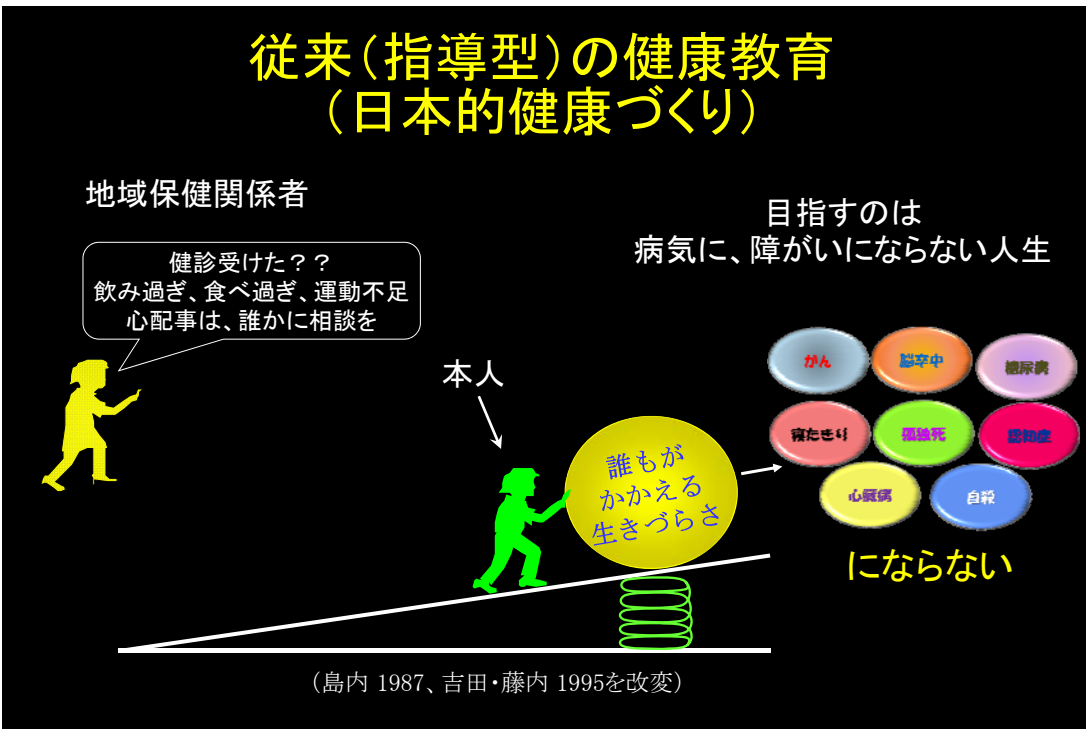
ヘルスプロモーション推進センター

岩室紳也

避けたいことは？



大事にしたいこと
めざしたいことは



健康日本21(第2次)概念図

健康寿命の延伸・健康格差の縮小

ソーシャルキャピタルの向上

①地域のつながりの強化

〈ソーシャルキャピタルの向上〉

①地域のつながりの強化

〈多様な活動主体による自発的取組の推進〉

②健康づくりに主体的に関わる国民の割合の増加

③健康づくりの活動に主体的に取り組む企業数の増加

④健康づくりに関して身近で専門的な支援・相談が受けられる

民間団体の活動拠点数の増加

〈健康格差の縮小〉

⑤健康格差の実態を把握し、対策に取り組む自治体の増加

「つながり」

たとえば

「絆」？

絆

はどう読みますか

絆(きずな)

つながり むすびつき

絆(ほだし)

手かせ 足かせ 迷惑 束縛

相反するから「お互い様」

ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)の三要素

信 頼

3つは相互に関連

ネットワーク

規範(互酬性)

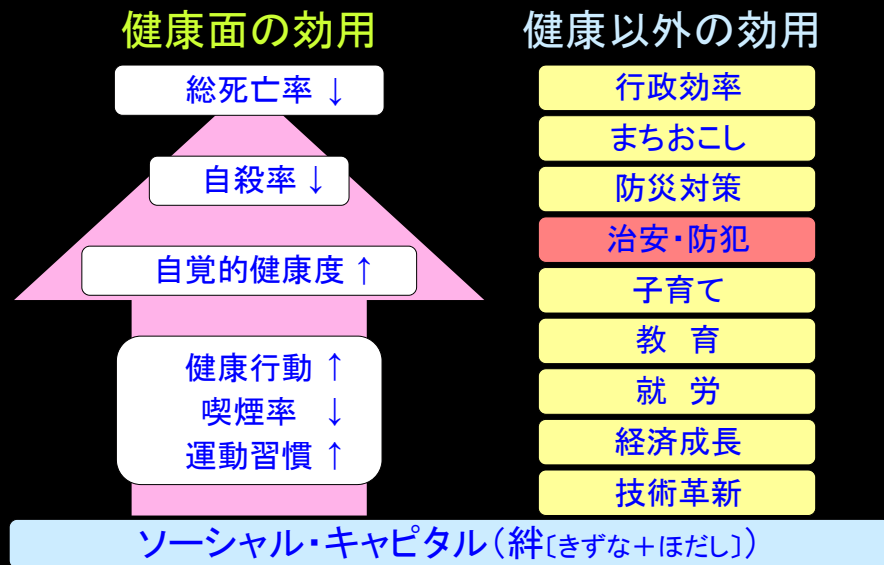
お互い様

絆(きずな: つながり、むすびつき)

絆(ほだし: 手かせ、足かせ、束縛、迷惑)

http://www.jpha.or.jp/sub/menu04_10.html

ソーシャル・キャピタル(絆[きずな+ほだし])の効用



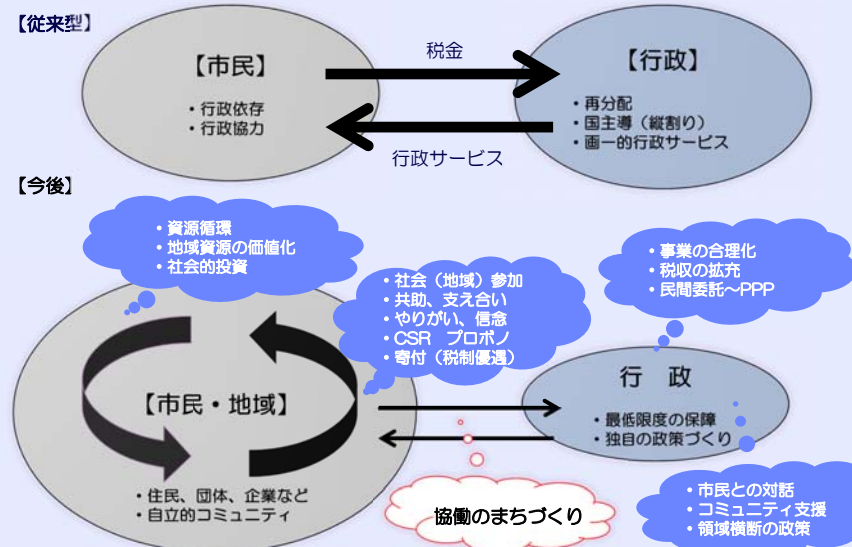
平成26年度厚生労働科学研究(健康安全・危機管理対策総合研究事業)
「地域保健対策におけるソーシャルキャピタルの活用のあるり方に関する研究」
http://www.jppha.or.jp/sub/menu04_10.html

協働でソーシャル・キャピタルの醸成を

- 1 行政の効率化の促進
- 2 参加ニーズの高まり
自己実現
市民の満足度を高める参加領域の拡大
当事者、高齢者、消費者、企業参加への拡がり
市民活動(地縁団体・NPO)や地域づくり
- 3 地域の実情の即したまちづくり
市民ニーズや地域の実態に見合ったまちづくり
何が必要とされているのか、何をすべきか、考えながら政策を作っていく必要性

千葉大学法政経学部准教授 関谷 昇先生資料改変

資源の新しい流れ



千葉大学法政経学部准教授 関谷 昇先生

地域コミュニティの見直し



千葉大学法政経学部准教授 関谷 昇先生

自立は、依存先を増やすこと

希望は、絶望を分かち合うこと

熊谷晋一郎



http://www.tokyo-jinken.or.jp/yoho/56/yoho56_interview.htm



が問われていることは

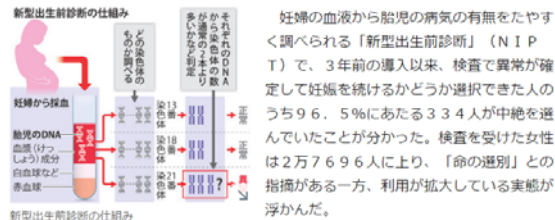


既に日本社会には

新型出生前診断 異常判明の96%中絶 利用拡大

毎日新聞 2016年4月25日 07時30分 (最終更新 4月25日 07時30分)

社会 > 医療 > 話題 > 速報 > サイエンス >



妊婦の血液から胎児の病気の有無をたやすく調べられる「新型出生前診断」(NIP-T)で、3年前の導入以来、検査で異常が確定して妊娠を続けるかどうか選択できた人のうち96.5%にあたる334人が中絶を選んでいたことが分かった。検査を受けた女性は2万7696人に上り、「命の選別」との指摘がある一方、利用が拡大している実感が浮かんた。

新型出生前診断を実施している病院グループ「NIP-Tコンソーシアム」が、加入する44施設の昨年12月までの実績を集計した。

対象となっている疾患は、21トリソミー(ダウン症)、心臓疾患などを伴う18トリソミーと13トリソミーの計3種類。いずれかで陽性反応が出たのは全体の1.7%にあたる469人。このうち、診断を確定するためその後に行った羊水検査で異常がなかったのは35人、流産・死産が73人のほか、その後が不明の人などもいた。残り346人のうち334人が中絶したのに対し、異常が分かっても妊娠を継続した女性が12人いた。

新型出生前診断は2013年4月、実施機関を日本医学会の認定施設に限定する臨床研究として開始された。35歳以上や染色体異常の子どもを産んだ経験のある妊婦らが対象。従来の羊水検査などより早い妊娠10週前後からでき、検査が原因の流産の危険性もないため関心を集めている。

分析した関沢明彦・昭和大学教授(産婦人科)は「想定よりも検査の精度が高いことが分かった。臨床研究の形で進め続けられることには批判もあり、今回の結果は(本格導入など)今後のあり方を見直す議論につながるだろう」と話す。【千葉紀和】

<http://mainichi.jp/articles/20160425/k00/00m/040/119000c>

行政効率探求が 問われていること



自立は、依存先を増やすこと

協働で増やす居場所、絆(きずな+ほだし)

希望は、絶望を分かち合うこと

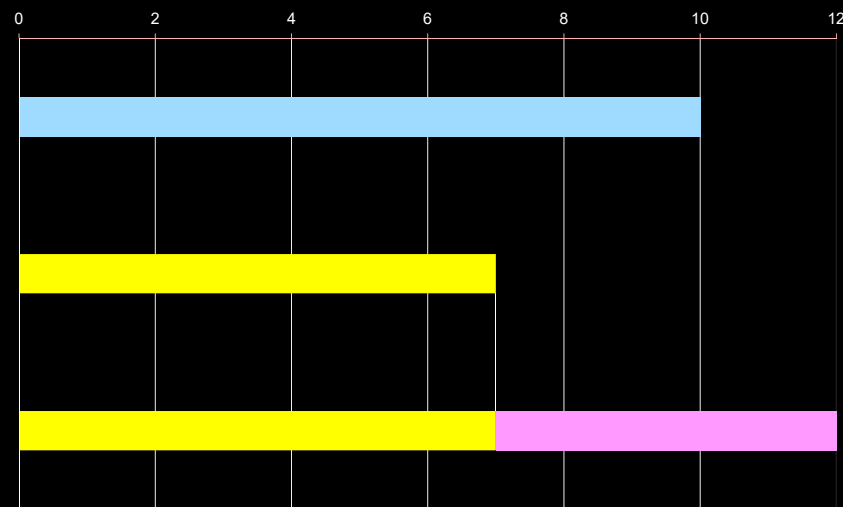
熊谷晋一郎



http://www.tokyo-jinken.or.jp/jyoho/56/jyoho56_interview.htm

サービスの質を落とさないために ～市民協働への期待～

■ 県施設 ■ 指定管理 ■ NPO・ボランティア



困ってからの課題解決、協働

ではなく

日常的に

自分自身の元気づくりを！

自分にとって大事な



をつながいやはまかだ、

NPO、ボランティア活動でキャッチ！

めざるところの再確認で

NPOのつよみを活かすとは？ ～知ってつながるNPO～

陸前高田まちづくり協働センター

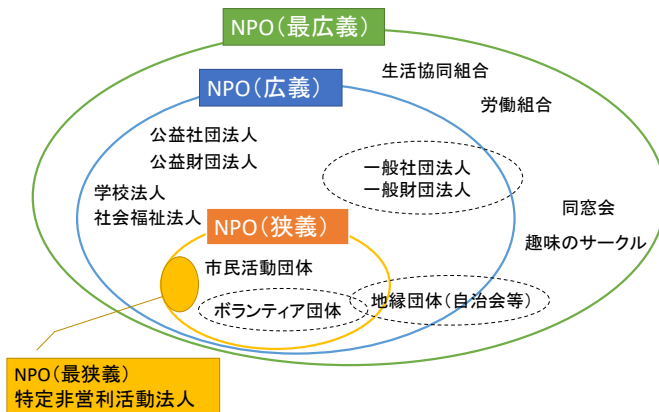
NPOってどんなもの？

NPOとは？

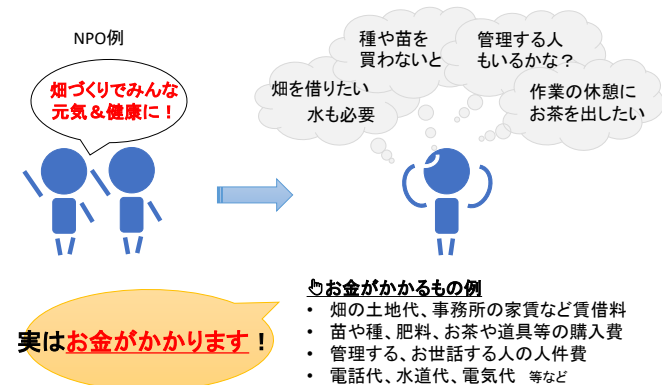
市民が地域にある様々な課題に対して、「何とかしよう」「より良くしよう」と自発的・主体的に取り組む活動している、公益かつ非営利の団体(市民活動団体)



NPOって「誰」のこと？



NPOはお金がかからない？



NPOの資金源は？

- ・定期的な収入
- ・使途の自由度が高い
- ・小口が多い

会費・寄附金

- ・使途の自由度が高い
- ・投資した分が回収できるか

事業収入

補助金・助成金

- ・単年度のものが多く
- ・使途が限定される
- ・金額は大きい

受託事業

- ・金額が大きい
- ・しっかりした実施体制
- ・団体の目的と一致するか

NPOのよくあるQ&A

Q.「非営利」だから儲けてはいけない？

「非営利」…活動で得た利益を構成員に分配しないで、目的を達成するための費用に充てることです。活動をするために、事業で収益をあげても**大丈夫**なのです。

Q.「NPO」と「ボランティア」は同じもの？

NPO…自分たちの社会や暮らしを良くするために必要な、営利を目的としない活動を行う**団体**(=人の集まり)のこと。
ボランティア…**個人**の自発的な自由意思によって行われる活動のこと。

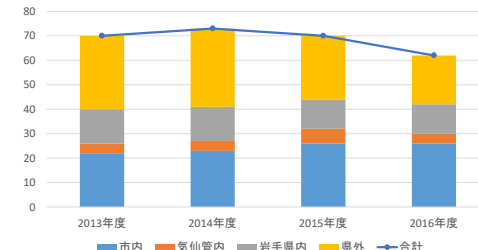
Q.儲からないのに、どうしてNPOで活動するの？

NPOが一番大切にしているのは、団体の目的を達成すること。
NPOは団体の目的達成のためであれば、その活動が儲からなくても積極的に取り組みます。
儲からないけれど、その活動があることで**地域がよりよくなる、困っている人を助けられることができる**。そこに価値を置いているのがNPOです。

＜陸前高田＞活動団体	活動分野	＜陸前高田＞活動団体	活動分野	＜大船渡＞活動団体	活動分野	＜釜石＞活動団体	活動分野	＜大船渡＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【福祉】【教育】	夢ネット大船渡	【福祉】【教育】	夢ネット大船渡	【福祉】【教育】	夢ネット大船渡	【福祉】【教育】	夢ネット大船渡	【福祉】【教育】
遠野まごころネット	【社会】	遠野まごころネット	【社会】	遠野まごころネット	【社会】	遠野まごころネット	【社会】	遠野まごころネット	【社会】
いりく	【福祉】	いりく	【福祉】	いりく	【福祉】	いりく	【福祉】	いりく	【福祉】
あむたかた	【福祉】【教育】	あむたかた	【福祉】【教育】	あむたかた	【福祉】【教育】	あむたかた	【福祉】【教育】	あむたかた	【福祉】【教育】
陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】
いわて生活協同組合	【福祉】	いわて生活協同組合	【福祉】	いわて生活協同組合	【福祉】	いわて生活協同組合	【福祉】	いわて生活協同組合	【福祉】
遠野山・暮らしネットワーク	【社会】	遠野山・暮らしネットワーク	【社会】	遠野山・暮らしネットワーク	【社会】	遠野山・暮らしネットワーク	【社会】	遠野山・暮らしネットワーク	【社会】
新千歳福祉士会	【福祉】	新千歳福祉士会	【福祉】	新千歳福祉士会	【福祉】	新千歳福祉士会	【福祉】	新千歳福祉士会	【福祉】
陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】
神戸大学 東北ボランティア	【社会】	神戸大学 東北ボランティア	【社会】	神戸大学 東北ボランティア	【社会】	神戸大学 東北ボランティア	【社会】	神戸大学 東北ボランティア	【社会】
新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】
いわて三陸復興財団	【社会】	いわて三陸復興財団	【社会】	いわて三陸復興財団	【社会】	いわて三陸復興財団	【社会】	いわて三陸復興財団	【社会】
復興事務所	【社会】	復興事務所	【社会】	復興事務所	【社会】	復興事務所	【社会】	復興事務所	【社会】
ハヤマ復興財団	【社会】	ハヤマ復興財団	【社会】	ハヤマ復興財団	【社会】	ハヤマ復興財団	【社会】	ハヤマ復興財団	【社会】
新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】
陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】
陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】
陸前高田市復興支援連絡会	【社会】	陸前高田市復興支援連絡会	【社会】	陸前高田市復興支援連絡会	【社会】	陸前高田市復興支援連絡会	【社会】	陸前高田市復興支援連絡会	【社会】
＜大船渡＞活動団体	活動分野	＜大船渡＞活動団体	活動分野	＜大船渡＞活動団体	活動分野	＜大船渡＞活動団体	活動分野	＜大船渡＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【福祉】【教育】	夢ネット大船渡	【福祉】【教育】	夢ネット大船渡	【福祉】【教育】	夢ネット大船渡	【福祉】【教育】	夢ネット大船渡	【福祉】【教育】
いりく	【福祉】	いりく	【福祉】	いりく	【福祉】	いりく	【福祉】	いりく	【福祉】
あむたかた	【福祉】【教育】	あむたかた	【福祉】【教育】	あむたかた	【福祉】【教育】	あむたかた	【福祉】【教育】	あむたかた	【福祉】【教育】
陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】
いわて生活協同組合	【福祉】	いわて生活協同組合	【福祉】	いわて生活協同組合	【福祉】	いわて生活協同組合	【福祉】	いわて生活協同組合	【福祉】
遠野山・暮らしネットワーク	【社会】	遠野山・暮らしネットワーク	【社会】	遠野山・暮らしネットワーク	【社会】	遠野山・暮らしネットワーク	【社会】	遠野山・暮らしネットワーク	【社会】
新千歳福祉士会	【福祉】	新千歳福祉士会	【福祉】	新千歳福祉士会	【福祉】	新千歳福祉士会	【福祉】	新千歳福祉士会	【福祉】
陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】
神戸大学 東北ボランティア	【社会】	神戸大学 東北ボランティア	【社会】	神戸大学 東北ボランティア	【社会】	神戸大学 東北ボランティア	【社会】	神戸大学 東北ボランティア	【社会】
新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】
いわて三陸復興財団	【社会】	いわて三陸復興財団	【社会】	いわて三陸復興財団	【社会】	いわて三陸復興財団	【社会】	いわて三陸復興財団	【社会】
復興事務所	【社会】	復興事務所	【社会】	復興事務所	【社会】	復興事務所	【社会】	復興事務所	【社会】
ハヤマ復興財団	【社会】	ハヤマ復興財団	【社会】	ハヤマ復興財団	【社会】	ハヤマ復興財団	【社会】	ハヤマ復興財団	【社会】
新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】
陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】
陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】
陸前高田市復興支援連絡会	【社会】	陸前高田市復興支援連絡会	【社会】	陸前高田市復興支援連絡会	【社会】	陸前高田市復興支援連絡会	【社会】	陸前高田市復興支援連絡会	【社会】
＜釜石＞活動団体	活動分野	＜釜石＞活動団体	活動分野	＜釜石＞活動団体	活動分野	＜釜石＞活動団体	活動分野	＜釜石＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【福祉】【教育】	夢ネット大船渡	【福祉】【教育】	夢ネット大船渡	【福祉】【教育】	夢ネット大船渡	【福祉】【教育】	夢ネット大船渡	【福祉】【教育】
いりく	【福祉】	いりく	【福祉】	いりく	【福祉】	いりく	【福祉】	いりく	【福祉】
あむたかた	【福祉】【教育】	あむたかた	【福祉】【教育】	あむたかた	【福祉】【教育】	あむたかた	【福祉】【教育】	あむたかた	【福祉】【教育】
陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】
いわて生活協同組合	【福祉】	いわて生活協同組合	【福祉】	いわて生活協同組合	【福祉】	いわて生活協同組合	【福祉】	いわて生活協同組合	【福祉】
遠野山・暮らしネットワーク	【社会】	遠野山・暮らしネットワーク	【社会】	遠野山・暮らしネットワーク	【社会】	遠野山・暮らしネットワーク	【社会】	遠野山・暮らしネットワーク	【社会】
新千歳福祉士会	【福祉】	新千歳福祉士会	【福祉】	新千歳福祉士会	【福祉】	新千歳福祉士会	【福祉】	新千歳福祉士会	【福祉】
陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】
神戸大学 東北ボランティア	【社会】	神戸大学 東北ボランティア	【社会】	神戸大学 東北ボランティア	【社会】	神戸大学 東北ボランティア	【社会】	神戸大学 東北ボランティア	【社会】
新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】
いわて三陸復興財団	【社会】	いわて三陸復興財団	【社会】	いわて三陸復興財団	【社会】	いわて三陸復興財団	【社会】	いわて三陸復興財団	【社会】
復興事務所	【社会】	復興事務所	【社会】	復興事務所	【社会】	復興事務所	【社会】	復興事務所	【社会】
ハヤマ復興財団	【社会】	ハヤマ復興財団	【社会】	ハヤマ復興財団	【社会】	ハヤマ復興財団	【社会】	ハヤマ復興財団	【社会】
新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】	新千歳大学	【社会】
陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】	陸前高田市社会福祉協議会	【福祉】
陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】	陸前高田市復興サポーターズ	【社会】
陸前高田市復興支援連絡会	【社会】	陸前高田市復興支援連絡会	【社会】	陸前高田市復興支援連絡会	【社会】	陸前高田市復興支援連絡会	【社会】	陸前高田市復興支援連絡会	【社会】

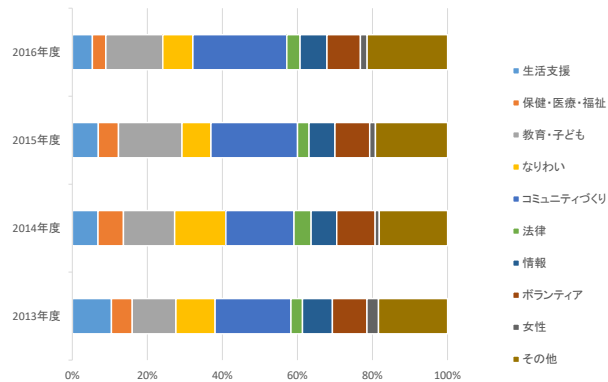
ご存知ですか？～震災とNPO

陸前高田市まちづくりプラットフォーム
登録団体数

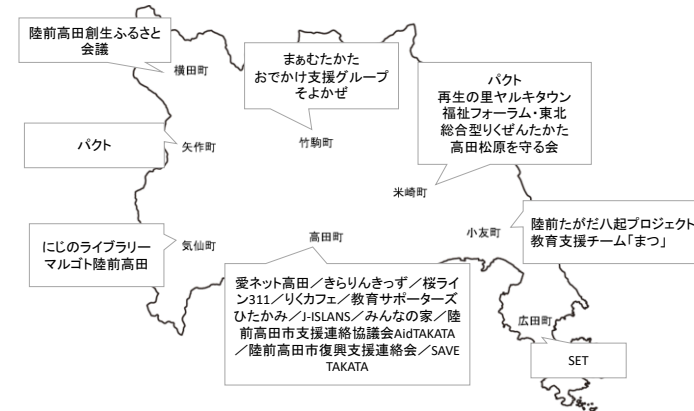


※陸前高田市まちづくりプラットフォーム
…陸前高田市で復興支援、まちづくり活動に取り組む団体のネットワーク組織。
市内外のNPO等が主な登録者。

ご存知ですか？～震災とNPO



陸前高田のNPO



紹介NPO①

NPO法人陸前たがだ八起プロジェクト

垣根のない地域コミュニティづくり



- 活動拠点(事務所)
...モビリア仮設住宅東集会所
- つながっているひと
...モビリア仮設住宅自治会・住民、モビリア退去住民、小友地区

つながった効果

八起プロジェクト×モビリア自治会・住民
 ・顔の見える関係ができ、住民の声から「ふれあい畑」や「モビリアクラブ」等の活動が始まった。

八起プロジェクト×小友地区
 ・「大人の遠足」の参加を募集するために、チラシを回覧版で配布してもらい、モビリア住民、モビリア退去者以外の地域の方にも参加してもらえた。

根をなくし、だれでも参加できるバスツアー

紹介NPO②

NPO法人きらりんきっず

地域みんなで取り組む子育ての場



- 活動拠点(事務所)
...高田大隅つどの丘商店街内
- つながっているひと
...未就学児をもつお母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん等

つながった効果

きらりんきっず×利用者
 ・ママ同士、パパ同士がつながる場所になった。

きらりんきっず×地域の方
 ・「夕涼み会」に地域の方からアイデアや協力をもらい、沢山の人の来てもらえる盛り沢山のイベントができた。
 ・過去に利用していた家族同士の再会、出合いの場になった。

ヒーマッサージ・クッキング など

紹介NPO③ 陸前高田市復興支援連絡会

地域住民同士の交流・つながりづくり



- 活動拠点(事務所)
...高田町中田
- つながっているひと
...仮設住宅の自治会・住民等

つながった効果

復興支援連絡会 × 仮設住宅住民

- ・ 仮設住宅でつながった住民から災害公営住宅でのお茶会開催の要望があり、お茶会を開催した。
- ・ 地域住民による仮設住宅の見守りにつながった。

復興支援連絡会 × 地域

- ・ 支援イベントの実施会場にコミセンや公民館を借りることができたので、仮設住宅の住民だけではなく地域の方にも参加してもらえた。

- ・ 会報による情報発信

NPOのつよみ



①現場の声に近い

- ・ 接する住民の方や地域の声を活動につなげる

②専門性が高い

- ・ 活動分野において高いノウハウを持っている

③公益性が高い

- ・ 利益よりも社会課題の解決を優先

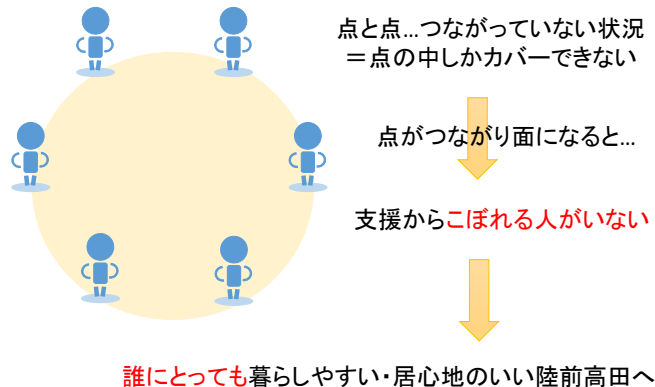
④柔軟性がある

- ・ 課題解決の行動に移す判断が早い

⑤独自のネットワークを持っている

- ・ 同じ分野で活動する市内外の団体とのつながりを活動に活かす

NPOとつながる理由



NPOとのつながり方



- ①ホームページや広報誌、会報を見る
- ②興味のあるイベント等に参加してみる
- ③団体のスタッフと顔見知りになる

でも...

「もう少し知ってからつながりたい...」
「自分でも始めてみたい...」

ご利用ください！

陸前高田まちづくり協働センターは、NPOを「知りたい」「つながりたい」「始めたい」方を応援し、支える、地域づくりの拠点です。

NPOの活動を有効に活用し 地域の実情に応じた 地域支援事業の展開 ～ある一例として～

民生部保健課 佐藤咲恵

地域包括ケアシステムの構築

可能な限り住み慣れた地域で自分らしい人生を最期まで続けることができるように、日本全国一律ではなく **地域の実情に応じたもの** が求められる。



新総合事業の基本的な考え方

(ア) 多様な生活支援の充実

住民主体の多様なサービスを支援の対象とするとともに、NPO、ボランティアによるサービスの開発を進める。

(イ) 高齢者の社会参加と地域における支えあい体制づくり

高齢者の社会参加のニーズは高く、地域の社会的な活動への参加は高齢者自身の生きがいや介護予防となるため、積極的な取り組みを推進する。

(ウ) 介護予防の推進

生活環境の調整や居場所と出番づくりなどへのアプローチも含めた、バランスのとれたアプローチが重要で、そのためによりハビリテーション専門職等を活かした自立支援に資する取り組みを推進する。

(エ) 市町村、住民等の関係者間における意識の共有と自立支援に向けたサービス等の展開

自立支援・介護予防の理念や、高齢者自らが介護予防に取り組むといった基本的な考え方、地域づくりの方向性等を、地域の関係者間で共有するとともに、多職種間によるケアマネジメント支援を行う。

(オ) 認知症施策の推進

認知症の人に対して適切な支援ができるように、高齢者自身への認知症サポーター養成等によって、認知症にやさしいまちづくりに取り組む。

(カ) 共生社会の推進

要支援者以外の高齢者、障がい者、児童等がともに集える豊かな地域づくりを心がけることが重要である。



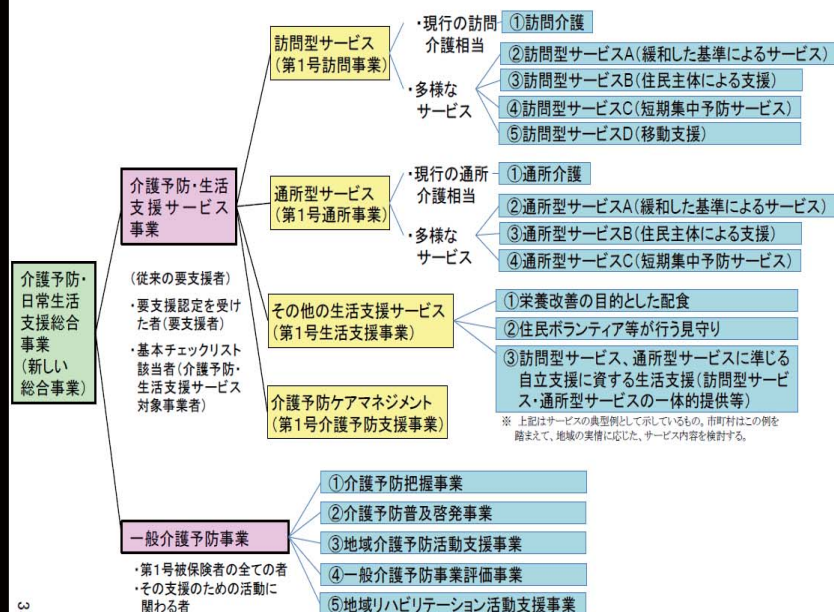
新総合事業を推進していくためには、

高齢者の社会参加

地域住民同士のつながり が欠かせない。

地域に不足しているサービスがあれば作り出し、その担い手として地域住民や高齢者がなれるような地域を作っていくことが必要になる。

【参考】介護予防・日常生活支援総合事業(新しい総合事業)の構成



35

訪問型サービス

出展: 介護予防・日常生活支援総合事業のガイドライン

サービス種別	① 訪問介護 (現行の訪問介護相当)	② A (緩和した基準によるサービス)	③ B (住民主体による支援)	④ C (短期集中予防サービス)	⑤ D (移動支援)
サービス内容	訪問介護員による身体介護、生活援助	生活援助等	住民主体の自主的活動として行う生活援助等	保健師等による居宅での相談指導等	移送前後の生活支援
対象者とサービス提供の考え方	既にサービス利用、認知機能の低下、状態不安定で専門職が必要等	状態等を踏まえながら、住民主体の支援等「多様なサービス」の利用を促進	体力改善、ADLやIADL改善が必要なケースに、3～6ヶ月で行う	訪問型サービスBに準じる	
実施方法	事業者指定	事業者指定または委託	補助(助成)	直接実施または委託	
基準	予防給付の基準を基本	人員等を緩和した基準	個人情報の保護等の最低限の基準	内容に応じた独自の基準	
サービス提供者	訪問介護員(訪問介護事業者)	主に雇用労働者	ボランティア主体	保健・医療の専門職(市町村)	

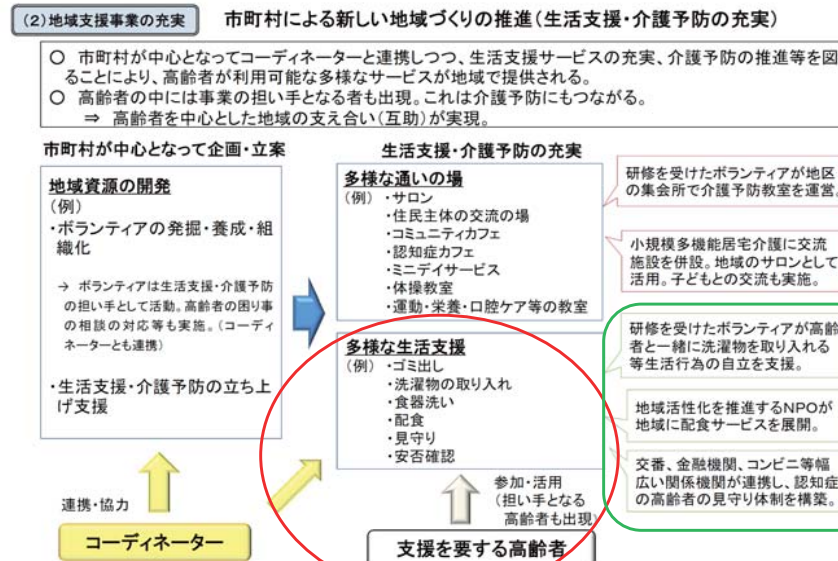
通所型サービス

出展: 介護予防・日常生活支援総合事業のガイドライン

サービス種別	① 通所介護 (現行の通所介護相当)	② A (緩和した基準によるサービス)	③ B (住民主体による支援)	④ C (短期集中予防サービス)
サービス内容	通所介護と同様生活機能改善のための機能訓練	ミニデイサービス運動・レクリエーション等	体操や運動等、自主的な通いの場	生活機能改善のための運動器の機能向上、栄養改善プログラム等
対象者とサービス提供の考え方	既にサービス利用、集中的に行うことで改善・維持が見込まれる、②～④の利用が難しい	状態等を踏まえながら、住民主体による支援「多様なサービス」の利用を促進		ADLやIADLの改善に向けた支援が必要で、3～6ヶ月の短期間で実施
実施方法	事業者指定	事業者指定または委託	補助(助成)	直接実施または委託
基準	予防給付の基準を基本	人員等を緩和した基準	個人情報の保護等の最低限の基準	内容に応じた独自の基準
サービス提供者(例)	通所介護事業者の従事者	主に雇用労働者+ボランティア	ボランティア主体	保健・医療の専門職(市町村)

生活支援サービス

出展: 介護予防・日常生活支援総合事業のガイドライン



10



事例紹介

新潟市地域包括ケアモデルハウス 実家の茶の間・紫竹

地域の茶の間 構想

新潟市人口 804, 879人（H26年4月30日現在）

H12年からの長期総合計画で、市内に**600**ヶ所、県内に**2,000**ヶ所開設している

実家の茶の間・紫竹は、現在市の「地域包括ケアモデルハウス」として運営しており、家賃と光熱費は市が負担している

★週2回（月・水）、参加費300円、昼食代300円（自分で利用受付表に記入した後ザルに入れる）

目的

人と人、人と社会の**つながりの場**づくり

子どもからお年寄りまで、障がいの有無を問わず、気楽に居られる場をつくり、お互いの不自由を知り、**助け合える地域づくり**につなげる

方針

赤ちゃんから高齢者まで、地域の方たちに茶の間として集まってほしい

受け身やお客様にはせず、「ここは自由に好きなことをしても良い」と気づき、やりたいことをしてもらう

そのことが、**誰かの役に立ったと感じて**ほしい

おたがい様のところで運営



大工仕事



赤ちゃんとお母さんも参加



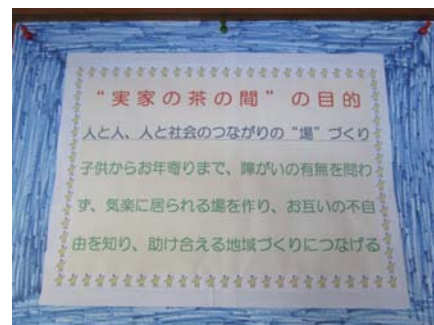
ベンチが完成



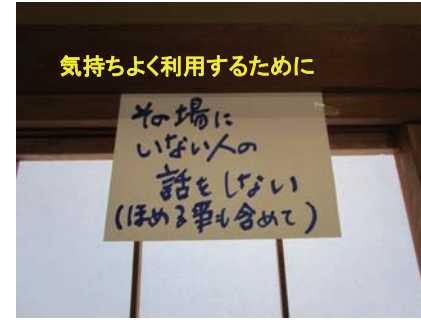
自主的に掃除



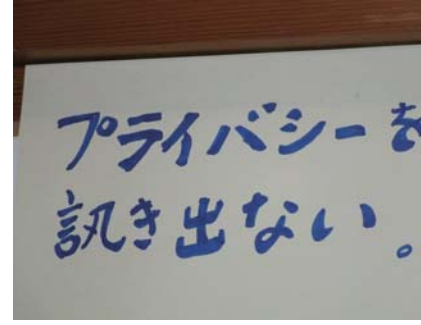
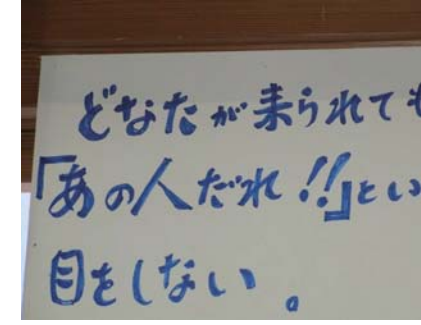
手作りの踏み台



このカゴにお金を入れる



ここで作業すると楽しい



これからの通い場・居場所づくりのために

- ★ 「通う場をつくりたいが、どうしたら良いのだろうか？」と思っている。
- ★ 何となく自分達で集まっているが、もう少し内容を工夫したい。
- ★ 現在活動しているが、運営費や人材不足などで行き詰まり感があり、今後も継続できるか心配だ。



等の困りごとがあったら

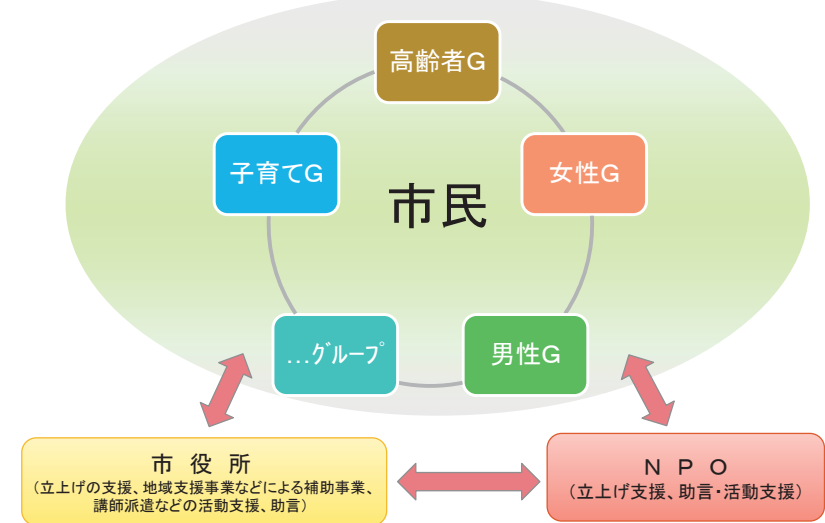
- ★ もちろん自分達でやりたいように継続できれば最高！
- ★ つまづいたり迷ったりしたならば、NPOや市役所に相談してみる。



そうすることで

- ★ NPOからの助言や支援をもらうことができる。
- ★ 地域支援事業を利用して、継続できる活動にすることもできる。
- ★ 集まりのきっかけづくりとして、介護予防教室や健康教室を活用できる。
- ★ どのように実現していくか、地域や行政、社協、NPOなどが一体となって具体的な話し合いをしていくことができる。

だから、自らが楽しんで心地よいグループを、
気負わずに始めてみてはいかがでしょうか



グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

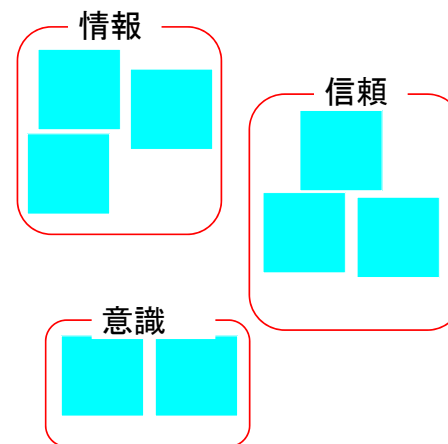
◆テーマ: **NPOの力、市民の力、行政の力…(関係機関)が、
どうするとつながれますか？**

①NPOとつながっていない理由

不安、不満など、現状・実際の共有から

◆NPOの力、市民の力、行政の力…(関係機関)が、 どうするとつながれますか？

①NPOとつながっていない理由



1G NPOの力、市民の力、行政の力…が、 どうするとつながれますか

①NPOとつながっていない理由

- ・つながっている
十分つながっているが、もっとつながりたい
- ・NPO同士で目的が違うとつながらない？
- ・住民さんはNPOが知らない、特別の人、外部の人というイメージが先行
- ・広報や情報にアクセスしにくい
心に留まらないのでは

②それを解消するためには

- ・NPOを身近なものに感じてもらえるように
わかりやすくかみくだく努力
- ・地域の活動に出て逃さない
- ・信頼できる人の口コミが一番
関わってもらった人に広めてもらう
- ・FBは高齢者は難しいので電話や1本釣もありがた
よね

2G NPOの力、市民の力、行政の力…が、 どうするとつながれますか

①NPOとつながっていない理由

- ・NPOが何ができるのか知らなかった
- ・知らないからだよね
知っている人が立ち上げると情報入りやすいけども…
リストなどあっても、そこにアクセスするのは勇
気がある
わからないことが行動につながらない理由
- ・専門性がどこにあるのか
落とし込むまでかかる

②それを解消するためには

- ・情報発信
それぞれが何をしているかわかるように
顔と顔が見える「人」を知る
中身もそうだけど、気軽に話しやすい関係大
事

3G NPOの力、市民の力、行政の力・・・が、 どうするとつながれますか

①NPOとつながっていない理由	②それを解消するためには
・まずもって名前が横文字(NPO) 想像がしにくい・・・、団体名が横文字、わかりにくい ・NPO法人という名前にハードルが・・・ 高田にはなかった ・活動の内容を深く理解していない ・NPOの中にどういう人材がいて、どういうことができるのか ・人を知っていれば、頼むかも知れない ・団体が多すぎて、把握できない ・どのような人が活動に参加されているのかわからないので躊躇している ・一つの団体が特定の人物としかつながっていないイメージがある ・高齢者はネット等は難しい ・新たなつながりをもつことの意義が見いだせないのでは ・依存を住民がしてしまっているのでは ・イベントの開催がメインで、日常生活の中でつながるイメージが持ちにくい	・対象にあわせた広報活動 紙ベースだったり、こまめに発信 ・代表者以外のNPOの活動をしているメンバーを顔を知ること ・地域住民との懇談の場があればニーズ把握ができるのではないかな ・身近なニーズを知る ・地域行事をNPOがするのではなく、住民のみなさんと一緒に行う ・イベントだけでなく、日常的な発信もする

4G NPOの力、市民の力、行政の力・・・が、 どうするとつながれますか

①NPOとつながっていない理由	②それを解消するためには
・よくわかっていない 情報が届いていない ・行政や社協がやるという他人事意識 なじみがない ・頼る必要がない 困っていない、自分たちでできる 気づいていない	・はまかだして知り合う 魅力づくり、心地よく、やれることを 地域の人が地域の問題を理解していない、共有していないので共有できる場をもとう 情報交換の場をもとう ・はまかだスポット 点なので、それをつなぐ人が必要 はまかだコーディネーターがつけなくていい

5G NPOの力、市民の力、行政の力・・・が、 どうするとつながれますか

①NPOとつながっていない理由	②それを解消するためには
・情報 協働センターさんの資料ではじめて知った こんなにもあるんだ 見たことない、気づかされた わからない ・自分たちが困らないと興味を持たない 関心を向けられないのでは ・直接的な被災者ではないといけなのではないかという感覚	・情報一覧がほしい 例えば、商店街リストなど・・・ ・ニーズにあったNPOが選べるように アクセスしやすいチラシ ・自分たちで発信することの大切さ 情報収集すること(それぞれが) ・他の団体の理解 異団体、県外でもつながる みんなでつながりましょう

6G NPOの力、市民の力、行政の力・・・が、 どうするとつながれますか

①NPOとつながっていない理由	②それを解消するためには
◆感想 NPO初めて知った、法人でしか知らなかった やりたいことをやれることが素敵 やりがいがある活動できることいい どんな活動をしているか知らせるといいのでは 中心人物がいなくなると継続ができない 若いマンパワーがあるといい 高田に入って学ばせてもらっています	・

次回(平成28年度第6回)未来図会議予定

◆日時

平成28年9月16日(金)13:30~15:30

◆メインテーマ(仮)

通いの場づくり~つながりを持ち続ける理由~②

…市内町別の「はまかだスポット」の確認、実際にプロット
町別人口・世帯構成、介護認定率等ともあわせて…

◆会場:陸前高田市役所第4号棟第6会議室

◆次々回(平成28年度第7回)

平成28年10月14日(金)13:30~15:30

平成28年度の陸前高田市保健医療福祉 未来図会議(月1回)の予定

○日程(予定)

H28年: 9/16(金)、10/14(金)、11/11(金)、
12/16(金)

H29年: 1/20(金)、2/17(金)、3/17(金)

※3/17(金)会場変更:陸前高田市コミュニティホール

○年間テーマ

私から始める他人(ひと)ごと意識の解消

~ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの実践~

「はまってけらいん、かだってけらいん運動」の推進、ハイリスクアプローチと
ポピュレーションアプローチの融合・実践、市民・他分野機関との協働、未来
図(計画)策定、居場所づくり、相互の経験に学ぶネットワークづくり

平成28年度の陸前高田市保健医療福祉 未来図会議月別テーマ予定

・10/14(金)第71回

(仮)子どもからお年寄りまで誰もが集える居場所づくり、コミュニティづくりとは
【出張未来図会議:析ヶ沢公営住宅集会室(予定)】

・11/11(金)第72回

(仮)子育て世代が必要としている支援、切れ目のない妊産婦・乳幼児への支
援とは ~子ども・子育て世代への合理的配慮って?~

・12/16(金)第73回

(仮)エンド・オブ・ライフケアと地域コミュニティ~地域でその人らしく最期を迎
えるために~

陸前高田市保健医療福祉未来図会議 メーリングリスト

◆こちらまでお知らせください。

<http://goo.gl/forms/NFUsNqBn3c>

陸前高田市保健医療福祉未来図会議
参加希望申し込みサイト

未来図会議への参加をご希望される方はここから申し込んでください。

*必須

氏名*

メールアドレス*

*私達が行なってきた活動について

平成 23 年 5 月 2 日千葉県「こころのケア」チームの一員として支援を開始。
平成 24 年度までは「心のデイケア事業」にて月 1 回定期的に訪問していました。
平成 25 年以降は 2~4 ヶ月に 1 回訪問しています。

・「心のケア」支援活動

(2015 年 9 月 19 日に第 38 回日本リハビリテーション医学会東北地方会での発表内容)

13. 「心のケア」支援活動の現状と今後の方向

一般財団法人みちのく愛隣協会 東八幡
平病院リハビリテーション科
○及川忠人、旭 俊臣

東日本大震災発災からすでに 4 年 4 か月経過しているが、演者等は 2011 年 5 月初旬より「千葉県心のケア支援チーム」の一員として被災地陸前高田市、大船渡市における「心のケア」支援活動を契機として支援活動を継続してきた。当初区域内の各病院・施設等ならびに行政機関や保健所等との連携活動に努め、「心のケア」支援活動や訪問支援活動が主な活動であった。訪問直前で断られるうつ症例経験もあり、「心のケア支援活動」の困難さを実感した。また大船渡地区で県立病院と地元保健所が主催する精神保健連絡会なら

びに陸前高田市では未来図会議への参加等を中心に地元の役場や関係者との情報の共有化を図った。2 年目の春からうつ、寝たきり、認知症高齢者への「巡回型の心デイケア」を細浦地区で 5 か月間継続し運動療法、作業療法、神経心理療法を少数集団を対象に行い、運動療法と作業療法ならびに料理体験等の行事参加を実施して心のケアには神経心理的療法に運動療法や作業療法等を同時に組み合わせることが有効な症例が多いことが分かった。

現状の課題としては被災地地域住民特に仮設住宅に住居する被災者にとって復興の遅れが目立つが、復興イメージが描けないための心理的負担や疲弊があり、引きこもり認知症高齢者への対応も喫緊の課題であり、自死予防を含め、心のケア支援活動を地域リハビリテーション活動の拡大範囲と捉え、今後の支援活動の方向を検討したい。

平成25年度以降の主な講演とその内容

日付	講演者	内容	場所
平成25年 7月17日	旭神経内科リハビリテーション病院 院長 旭俊臣	気仙地域精神保健福祉担当者等連絡 会にて講義	岩手県立大船渡病院 3階講義室
平成25年 12月19日	NPO自殺予防ネットワーク風理事長 篠原鋭一	自殺予防対策講演	大船渡地区合同庁舎4階大会議室
平成27年 10月22日	NPO自殺予防ネットワーク風理事長 篠原鋭一	自殺予防について	陸前高田市コミュニティホール シンガポールホール
平成28年 1月21日	東八幡平病院 院長 及川忠人	気仙における相互連携（多職種連携） の課題と未来	シーパル大船渡 2階 大会議室
	旭神経内科リハビリテーション病院 院長 旭俊臣	高齢者のうつ病と認知症への対応	
平成28年 1月22日	旭神経内科リハビリテーション病院 院長 旭俊臣	引きこもり高齢者の対応	陸前高田コミュニティホール

< 各戸1枚ずつお取りください >

平成28年度陸前高田市介護予防事業



出前講座

りくカフェでは、地域の皆さんと楽しく介護予防・健康づくりに取り組んでいます！
気軽にできる体操、健康づくりの“コツ”がわかる講座などの他、りくカフェ自慢の
健康ランチを参加者の皆さんと楽しむというプログラムです。お気軽にご参加ください！

<日時>： 11:00～13:00 全4回 毎週水曜日

前期 6月7日・14日・21日・28日 (X)

後期 11月1日・8日・15日・22日

※前期または後期どちらかを、選んでの参加になります。

<会場>： 市営住宅中田団地 集会室

<参加費>： 毎回500円（食事材料費等）

<対象>： 市営住宅中田団地にお住まいの方で介護予防に興味のある65歳以上の方

<定員>： 10名

<申込方法>： りくカフェにお電話か、下記申込書によりFAXにて お申込みください。

<申込み先>： 特定非営利活動法人りくカフェ 電話22-7311 FAX22-7317

<共催>： 陸前高田市 保健課 54-2111（内線248）

<各回のプログラム>

11:00～11:15 血圧・体重測定
11:15～11:35 健康体操
11:35～12:00 健康ミニ講座
12:00～13:00 お楽しみ昼食会

健康ミニ講座

1回目 お口の大事な話
2回目 栄養の話
3回目 呼吸法体験
4回目 私のツボは？

申し込み書

（お電話でも、下記項目をお伝えください。）

どちらかに○	お名前	電話番号	生年月日	部屋番号
前期・後期				

<お問い合わせ> りくカフェ 陸前高田市高田町字鳴石22-9 TEL0192-22-7311

♪♪～大迫力！！ 黒マグロ解体ショー！！～♪♪

7月17日未来商店街で黒マグロの解体ショーが行われました。参加して下さった方はなんと総勢200名以上大迫力の解体ショーに歓声が何度も上がっていました。その後は解体したマグロを使ったマグロ丼がふるまわれ住人さん達は新鮮な黒マグロに舌鼓を打っていました。



◎マグロをさばいて頂いた磨哉さん◎

浅草橋駅前で会社に向かうサラリーマンにガッツと声を掛け毎朝エールを送っている通称『ガッツおじさん』こと嵯峨 完さん震災を受け、被災地を勇気付けるため定期的に各被災地でマグロの解体ショーを行っています。

◎おはようさん

「あおぞら整骨院」によるマッサージボランティア

①9月4日 要谷仮設住宅集会所 時間 13:30～17:00頃まで

来場者数によって、終了時間に変更があります

※無料マッサージです

◎7月の主な催事

◎WITH YOU GLOBAL

「新聞紙によるペーパーフラワー作り」



26日(火)栃ヶ沢仮設住宅集会所で、アート教室を行いました。今回行ったのはペーパーフラワーというもので、その名のとおり、紙(新聞紙)を使って本格的なお花を作るアートです。参加した住人さんの中には親子連れの方もいましたが、皆さんあっという間にコツを覚え上手できれいなお花を作っていました。

「名城大学付属高校吹奏楽部コンサート」



28日竹駒コミュニティーセンターで行われました。初めに震災当時の様子、仮設暮らしの現状について当会支援員から話があり、生徒の皆さんはとても真剣にお話を聞いていました。

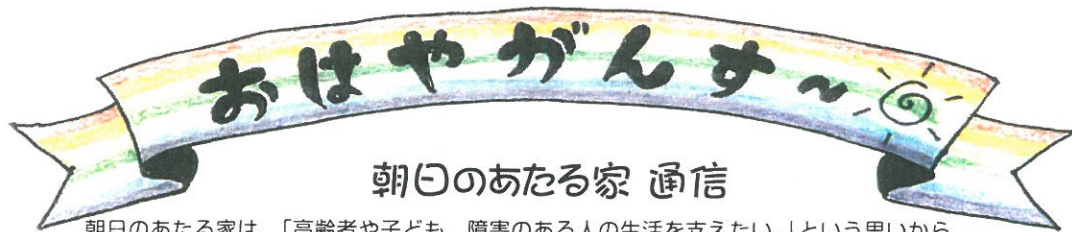
その後、住人さんとの交流会や生徒さん達による吹奏楽のコンサートが行われました。生徒さん達の迫力満点の演奏に住人さん達はとても感動したようでした。

◎事務所が移転しました



遅くなってしまいましたが、事務所の引っ越しを行いました。詳しい住所は下記をご覧ください。
新しい環境でこれからますます復興に向けて頑張っていきたいと思います。

編集後記 オリンピックに甲子園と最近はテレビから離れられませんね。つい釘付けになって見てしまいますが、夜更かしに気を付けて日本を応援しましょう。 ガンバレ日本！！



朝日のあたる家 通信

朝日のあたる家は、「高齢者や子ども、障害のある人の生活を支えたい。」という思いから、「どなたでも気軽に立ち寄りお茶を飲んだり、お話をしたり、ミニコンサートを楽しんだり、ときには相談にのってもらえたり・・・」そんな、当たり前前の地域生活を地域のみなさんと一緒につくっていくための拠点として開設された「みんなのコミュニティーハウス(居場所)」です。

HP: <http://asahinoataruie.org/index.html>

facebookページ: <https://www.facebook.com/asahinoataruie.takata>

2016
8月号 Vol.39

発行
NPO法人 福祉フォーラム・東北
朝日のあたる家
〒029-2206 岩手県陸前高田市米崎町字松峰48-1
TEL: 0192-47-4750 FAX: 0192-47-4751
fukushitohoku@gmail.com

お知らせ

Information

フルート・ヴァイオリン・ピアノによる ミニ・コンサート

8月3日(水) 10:00~11:00 入場無料

フルート・ヴァイオリン・ピアノ用にアレンジした日本のうたの曲とともに歌っていただいたり、耳馴染みのあるクラシック音楽、ポピュラー音楽などでひと時を楽しんでいただけます。どなたでも参加できます。どうぞお気軽に!

タイコクラブの みんなで打楽器演奏を楽しもう!

8月27日(日) 10:00~11:45 参加無料

ペルーの打楽器カホンを中心に、基本奏法からパターン練習、アンサンブルなどを行います。会場にて楽器のレンタルも行います。休日を音楽演奏で楽しんでみませんか!?

東北復興応援コンサート

8月27日(土) 15:00~16:00 入場無料

東京スカイツリーの下からやってきた音楽教室アスパイア。チェロとフルートとヴァイオリンの素敵な演奏が楽しめます。10分でわかるベートーヴェンの映像と音楽とお話もあります。6才から60代のメンバーと一緒に歌いましょう!!

一本松クラブ

8月30日(火) 9:30~11:30 参加無料

米崎地区の介護予防教室として、毎月一回開催しています。今月の内容は、笑いヨガ・脳活! NPO法人総合型リくぜんたかたの釜澤俊一氏を講師に迎えます。米崎地区の方は送迎バスがありますので、お問い合わせください。どうぞお気軽に!

イベント報告

Event Report

6/26日

講演会「認知症とともに ~いつまでも住み慣れた まちで暮らすため~」

アルツハイマー型認知症の当事者である、丹野智文さん(おれんじドア代表)の講演と新田國夫さん(新田クリニック院長)との対談が行われました。当事者による貴重な体験談では、「一緒に」という「パートナー」意識が大切であると学びました。対談では、地域でよりよく暮らすためのヒントを頂きました。



7/5火

アップルカフェ

毎月第一火曜日に開催しているアップルカフェ(認知症カフェ)。毎回多くの方々にご参加下さっています。話に花が咲き、時間を忘れるほどです。



7/17日

タイコクラブの みんなで打楽器演奏を楽しもう!

ペルーの打楽器カホンを使って、打楽器の基本を学び、アンサンブルを行いました。初心者から経験者まで、演奏を楽しみました。最後には、ギターやサクソとのセッションも行われ、盛り上がりがありました!



朝日のあたる家ではグラウンドゴルフが楽しめます!

朝日のあたる家の広場では、グラウンドゴルフの練習ができます。随時利用中です!ぜひお気軽にご利用下さい。(担当/熊谷)



今月の笑顔



吉田 みよ子さん(米崎町)

「朝日のあたる家に行くのが、本当に楽しみです。スタッフがやさしいので、毎日来ています。いつでも行けるところがあるのは、ありがたいことです。特に「みんなでごはん」はおいしい食事が食べられるので、皆さんと一緒ににはまりません!」

認知症カフェ



開催のお知らせ

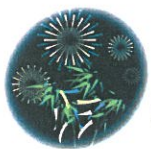
米崎町が「認知症でOK!」という地域になることが「アップルカフェ」の願いです。

「アップルカフェ(認知症カフェ)」は、住み慣れたまちで安心して暮らすために、認知症の人やその家族・知人、認知症のことが気になる地域の人、ケアの専門職の方などが気軽に集まり、お茶を飲みながら語らい、ひと時を過ごす場所です。昨年の11月から、新たにリニューアルし、月1回の開催となりました。おいしいコーヒーや紅茶、お菓子を用意して、地域の皆さまのご参加をお待ちしています。どうぞお気軽にご参加下さい!

参加費: 100円 ●第21回 8月2日(火) 13:30~15:00

編集後記

夏祭りがさまざまな場所で催されています。屋台、浴衣、太鼓や笛の音色、花火などなど、五感を刺激してくれます。高田の夏の風物詩、うごく七夕・けんか七夕は、高上げ工事のため場所を変えて開催されます。新しく造成された土地に移り住み、居住地区が変わってしまっている先づうなるのかと心配しながらも、伝統を絶やさないようにと努力している姿には、続けていくことの大切さと大変さを感じられます。(長友)



8月の予定表

開館時間：9：00～18：00（木曜日定休）

日	月	火	水	木	金	土
	1 いきいき百歳体操 10：30～11：45  手芸の輪 13：30～15：00 	2 アップルカフェ 13：30～15：00	3 フルート・ヴァイオリン・ピアノによるミニ・コンサート 10：00～11：00 囲碁 13：30～17：00 	4 休館	5 お出かけ広場 きらりんきっず 10：00～11：45 いきいき百歳体操 13：30～14：45 	6
7	8 いきいき百歳体操 10：30～11：45  手芸の輪 13：30～15：00 	9	10 みんなでごはん 10：00～13：00  囲碁 13：30～17：00 	11 休館	12 いきいき百歳体操 13：30～14：45 	13
14 休館	15 休館	16 休館	17 囲碁 13：30～17：00 	18 休館	19 いきいき百歳体操 13：30～14：45 	20
21 タイコクラブのみんなで打楽器演奏を楽しもう！ 10：00～11：30	22 いきいき百歳体操 10：30～11：45  手芸の輪 13：30～15：00 	23	24 みんなでごはん 10：00～13：00  囲碁 13：30～17：00 	25 休館	26 いきいき百歳体操 13：30～14：45 	27 東北復興応援コンサート 15：00～16：00
28	29 いきいき百歳体操 10：30～11：45  手芸の輪 13：30～15：00 	30 一本松クラブ（笑いヨガ・脳活） 9：30～11：30	31 囲碁 13：30～17：00 	8月14日(日)～8月16日(火)まで、 休館(お盆休み)となります。		

地域みなさんの活動に『朝日のあたる家』をご利用いただけます。

- 歌（コーラス）や踊りの練習、趣味の活動、DVDの上映会、50人程度までの寄り合いや会議などで、朝日のあたる家をご利用いただけます。
- 小学5年生から高校生までの人達を対象に、学習するための自習室として18時以降も開放することができます。
- 敷地内には遊べるモニュメント「虹の架け橋」と、ホールにはグランドピアノもあり、子どもたちがたくさん遊びに来て下さい。
- 朝日のあたる家は、地域みなさんが誰でもいつでも気軽に立ち寄れる場所です。みなさんでシェアしながらご利用下さいね！

詳しくは、朝日のあたる家までお気軽にご相談下さい。 ※ 原則として“貸し切り”はできませんのでご了承願います。



お風呂

休館日以外ご利用になれます。お一人でも、お友達やご家族とでもどうぞ。前もってご連絡ください。

施設運営協力費（1人：200円）をお願いいたします。

利用時間：10：00～12：00 14：00～16：00 TEL：0192-47-4750

脳卒中予防講演会

～家族を脳卒中から守るためのノウハウ～

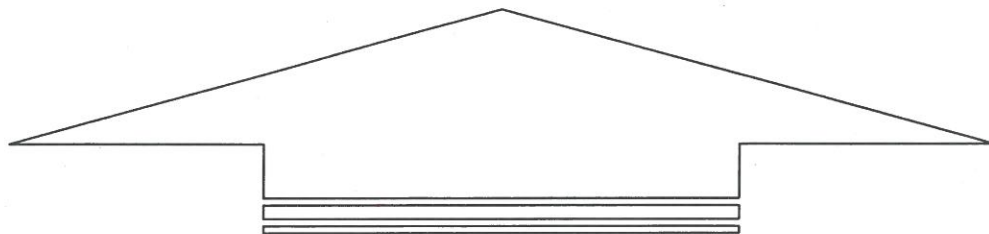
☆ 脳卒中に前ぶれ症状があることをご存知ですか？疲れているためだと思っているその症状・・・もしかしたら、脳卒中のサインかもしれません！早い治療を行うことで脳梗塞から命を守り、後遺症を防ぐことが可能です。大切な家族と一緒に元気な毎日を過ごせるように、家庭や地域でできることを一緒に学びましょう。

日 時	平成 28 年 9 月 9 日（金） 13:00～15:30
場 所	陸前高田市コミュニティホール
内 容	● 講演 ●（14:00～15:30） 「家族を脳卒中から守るノウハウ ～その症状もしかして・・・～」 国立循環器病研究センター バイオバンクNCBN推進室 たかだ あきら 高田 彰 先生  循環器を専門とする日本最先端の医療機関 国立循環器病研究センター（大阪府）から医学博士である高田彰先生をお迎えし、寝たきりの原因 第1位となっている脳卒中について、予防のためのノウハウ、脳卒中の前ぶれ症状等についてお話をいただきます。 ● 健康測定コーナー ●（13:00～14:00） BC チェッカーを使った血管年齢測定と InBod を使って体組成測定（体の筋肉と脂肪のバランス） を無料で行います！
申し込み	9月5日（月）までに裏面様式により申し込みをお願いします。

【参加無料】

岩手県大船渡保健所 電話 27-9913（内線213）





送信Fax番号:27-4197

脳卒中予防講演会参加申込書

FAXまたはお電話で、お申し込みください。

定員70名（先着順）

● FAX受付

下記に必要事項をご記入の上、FAX（27-4197）送信して下さい。

所 属 (個人の方は不要です)	
所属連絡先 (個人の方は不要です)	
ご住所または 所属所在地 (いずれかに○をつけてください)	・ 大船渡市 ・ 陸前高田市 ・ 住田町 上記以外の市町村（ ）
ご参加いただく方 のお名前	

● 電話受付

TEL : 0192-27-9913（内線 213）

被災地に
おける

平成28年度 岩手県高齢者等サポート拠点職員等研修事業 市町村別研修

地域の支え合い活動の 意味と発掘の視点

＊ プログラム

8月26日(金)

会場：陸前高田市役所
4号棟 第4会議室

- 1回目 9:30～12:00
- 2回目 13:00～15:30

＊ 1回目と2回目は同じ内容です。
ご都合のよい時間をお選びください。

＊ プロフィール

- ① 地域包括ケアについて学ぶ
- ② 地域支え合い活動の多様性と意義を学ぶ

① 講師

高橋 誠一 氏

東北福祉大学 総合マネジメント学部 教授

北海道大学大学院経済学研究科博士課程を経て、
同大助手。

宅老所、グループホーム、ユニットケア、小規模
多機能型居宅介護などの小規模ケアを研究するなか
で、認知症介護やターミナルケアに関心をもつ。
宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 副委
員長

② 講師

池田 昌弘 氏

全国コミュニティライフサポートセンター 理事長

社会福祉法人全国社会福祉協議会、社会福祉法人栃木
県社会福祉協議会、社会福祉法人東北福祉会「せんだん
の杜」副社長（特別養護老人ホームなどの施設長を併
任）を経て、2005（平成17）年7月から現職。

現在、介護等サポート拠点等被災生活支援従事者研修
の実施や、「月刊地域支え合い情報」などを発行。

また、宮城県石巻市の委託でグループホーム型で制度
外対応型の「あがらいん」を運営。（「あがらいん」の
運営モデルである「ひなたぼっこ」を、宮城県仙台市青
葉区で運営）

お問い合わせはこちら

●主催：岩手県（岩手県庁 保健福祉部 長寿社会課）

実施機関：全国コミュニティライフサポートセンター（CLC） 研修担当まで

〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1階

TEL:022-727-8730 FAX:022-727-8737 E-mail:clc@clc-japan.com

地域の支え合い活動の意味と発掘の視点

平成28年度 岩手県高齢者等サポート拠点職員等研修事業

※FAX番号はお間違えのないようお願いいたします。

受講申込書

FAX: 022-727-8737

勤務先(所属)			
1	フリガナ	性 別	申込時間
	代表者氏名	男 ・ 女	☐ 1回目 / 9:30~12:00 ☐ 2回目 / 13:00~15:30
2	フリガナ	性 別	申込時間
	参加者氏名	男 ・ 女	☐ 1回目 / 9:30~12:00 ☐ 2回目 / 13:00~15:30
3	フリガナ	性 別	申込時間
	参加者氏名	男 ・ 女	☐ 1回目 / 9:30~12:00 ☐ 2回目 / 13:00~15:30
4	フリガナ	性 別	申込時間
	参加者氏名	男 ・ 女	☐ 1回目 / 9:30~12:00 ☐ 2回目 / 13:00~15:30
5	フリガナ	性 別	申込時間
	参加者氏名	男 ・ 女	☐ 1回目 / 9:30~12:00 ☐ 2回目 / 13:00~15:30
6	フリガナ	性 別	申込時間
	参加者氏名	男 ・ 女	☐ 1回目 / 9:30~12:00 ☐ 2回目 / 13:00~15:30
7	フリガナ	性 別	申込時間
	参加者氏名	男 ・ 女	☐ 1回目 / 9:30~12:00 ☐ 2回目 / 13:00~15:30
8	フリガナ	性 別	申込時間
	参加者氏名	男 ・ 女	☐ 1回目 / 9:30~12:00 ☐ 2回目 / 13:00~15:30
9	フリガナ	性 別	申込時間
	参加者氏名	男 ・ 女	☐ 1回目 / 9:30~12:00 ☐ 2回目 / 13:00~15:30
10	フリガナ	性 別	申込時間
	参加者氏名	男 ・ 女	☐ 1回目 / 9:30~12:00 ☐ 2回目 / 13:00~15:30
代表者 連絡先住所		〒	
電話番号		FAX番号	

※ 今後の研修予定

研修名	開催日時	会 場	講師予定
仮設住宅等からの 移行期における対応 【災害公営住宅編】	9月28日(水) 10月26日(水)	陸前高田会場 山 田会場	岩手大学 農学部 教授 広田 純一 氏 ほか事例発表者

平成28年度 第4回（震災後第68回） 陸前高田市保健医療福祉未来図会議 議事録

テーマ：「通いの場づくり ～つながりを持ち続ける理由～①」

日 時：平成28年7月22日(金) 13：30～15：30

場 所：陸前高田市役所 4号棟第6会議室

参 加：43名 11団体

資 料：下記にアップ

<http://healthpromotion.a.la9.jp/saigai/rikuzentakata.html>

1. 挨拶

菅野民生部長

本年度、民生部は「地域に打って出よう」ということを掲げて活動しており、未来図会議においても、災害公営住宅の中で新しいコミュニティをどうつくるのかという議論をしてきた。きょうは、今後の新たなキーポイントとなる地域での居場所、通いの場と提唱しているが、「その部分を新たに作るものなのか、それとも目を向ければ既にあるものもあるのか」「はまってかだつての拠点となるような部分が本当にあるのか、それをどうつくっていくのか」を皆さんでお話しいただきたい。

2. 内容

(1) 未来図会議のめざすところと「これから」

- ・陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

(2) 報告

報告「市内のあるもの（宝物）探し、地域の通い場探し」

- ・民生部地域福祉課 課長補佐兼地域福祉係長兼社会福祉士 馬場勝基氏

活動事例①竹駒町 店舗型通いの場「ワーカーズコープ」勝沼雅典氏、古澤光氏

活動事例②広田町 住民主導型通いの場「泊お楽しみクラブ」藤原紀久子氏

活動事例③矢作町 男の通いの場「精米所サロン」※ビデオ出演

(3) グループで「はまってけらいん、かだつてけらいん」

- ・テーマ：つながりを持ち続けている事例から学ぶこと

- ・すごいね！ すばらしいね！ なぜ続けているの？ 何が大事なの？

- ・次の具体的な実践につなげるには？ 自分の地域にはないかな？…

（１）未来図会議のめざすところと「これから」

（陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏）

この未来図会議でめざすことは、住民の生活にかかわる関係者が集まり、住民一人一人が健康で文化的な生活及びノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりをどうやってつくっていけるか、皆さんと一緒に考え続けることである。

私は、三十五年医者をやってきたが、健康づくりの考え方は随分変わってきた。以前は病気になる人生を目指して、「健診を受けたか、食べ過ぎに注意しよう」と注意してきたが、それでもなかなかよくならない。

健康日本 21 が 2000 年に始まったが、そこでは居場所のある人生を目指して、本人が頑張る「自助」、地域住民がつながってお互いさまで助け合う「互助・共助」、さらに「公助」の 3 つが大事だと言っている。今一番行政が力を入れなければいけないのは、ネットワークづくりである。人と人とをつなぐことが大事だということが、ヘルスプロモーションの考え方なのである。

もう一つ大事なものは「生活の質の向上」と「社会参加の機会をふやす」こと。社会に出ている方々は、健康寿命も延びるし、生活の質も向上するということがわかってきた。そのために何が大事かという「ソーシャル・キャピタル」、日本語でわかりやすく言うと「地域のつながりを強化しよう」ということである。このソーシャル・キャピタルは信頼・ネットワーク（絆：きずな）・お互いさま（絆：ほだし）がもとで人は健康になり、自殺も減る。それ以外にも、まちおこしや防犯の点もよくなることがわかっている。

では、どうやってソーシャル・キャピタルをつくっていけばいいのかというと、これが当たり前にできるのは、はまってけらいん、かだつてけらいんが浸透したまちである。そのためには、はまかだスポット、通いの場があれば、人は社会にも出て行くし、元気になっていくのではないかな。このソーシャル・キャピタルは、はまかだスポット、通いの場があるところでどんどん育っていくわけである。きょうは、陸前高田市の中にソーシャル・キャピタル（＝はまかだスポットや通いの場）はどこにあるのか。それを具体的に教えていただき、皆さんに何かを感じて持ち帰っていただきたい。

（２）報告「市内のあるもの（宝物）探し、地域の通いの場探し」

（民生部地域福祉課 課長補佐兼地域福祉係長兼社会福祉士 馬場勝基氏）

7 月の「通いの場づくり～つながりを持ち続ける理由～①」というテーマだが、実は陸前高田市で既に活動している 3 つの団体がある。きょうは、この団体に途中で発表していただきながら進めていきたいと思う。

まず「市内のあるもの（宝物）」だが、地域の通いの場を探すということで、気仙地区の民生児童委員協議会の岡本会長が中心となり、民生委員・児童委員の協力のもとで水上の災害公営住宅の集会所でお茶っこのみの会を行っている。災害公営住宅や仮設住宅に住んでいる方、近隣の方、さまざまな方が集い、はや 1 年になるが、先日私たちもお招きを受けて行ってきた。この水上サロンに集っている方々はほぼ女性で年齢もまちまちだが、非常に明るく楽しく元気よく、カラオケやゲームをして盛り上がっていた。

それを「きょういく」や「きょうよう」という。漢字で書くと学校の教育や教養を高めるという話になるので、ここはあえて平仮名にした。「きょう、どこどこに行く予定がある」というように置きかえてほしい。例えばリハビリを一人で黙々とやれば筋力は維持できるが、地域で生きていくためには必ずかかわりや活動性・社会参加が不可欠になる。つまりリハビリは自分自身を鍛えるためだけのものではなく、社会生活や地域生活ひいては在宅生活に根差したものでなければならない。したがって、かけがえのない構成員になることが地域においての役割、その人の存在意義を高めるのではないかと思う。

それでは、既に地域で実践している3つの団体に順次報告をお願いしていきたい。

①勝沼雅典氏：

最初に同じ仲間の古澤から、私たちの団体ワーカーズコープについてお話しし、それから説明をしたいと思う。よろしく願いたい。

古澤氏：

ワーカーズコープは、30～40年前ぐらいから失業問題をテーマに掲げている団体である。子育て中のお母さんや障がいのある方、年配の方など、働きたいと思う人が誰でも働ける社会をつくっていこうということで、草刈りや掃除の仕事から始め、最近では福祉や地域に貢献できる仕事をしている。

2011年7月に東北復興本部（仙台）を設置し、岩手の大槌と陸前高田・宮城の気仙沼・南三陸・石巻・亘理・登米の7つの地域でそれぞれ暮らしている人たち自身が、自分たちのまちに必要なことを自分たち自身で仲間を集めてつくり上げていく、そのお手伝いを一緒にやっていきたいということで活動している。

勝沼雅典氏：

ワーカーズコープが高田で活動拠点にしている直売所は、2013年3月に旧森の前地区に開所し、盛り土の関係で去年の12月に竹駒に移った。ことは震災から5年という節目の年で、市内のハード面の復興が徐々に進み、住宅の自立再建や復興住宅にどんどん移り変わる転換期にきている。もともとなかった仮設住宅で生まれた住民同士のコミュニティがまた少しずつなくなろうとしている中で、地域で誰もが集える場、住民同士で支える場という新しいコミュニティが必要だと感じている。

直売所を運営しながら、いろいろな能力・技能を持っている地域の方に出会う中で、「今度こういうことをしたいが、一緒にやらないか」と声をかけると、「私は、こういうことができる」「あの人を知っている」と、地域のつながりができ、地域の達人と出会い、そこからサロン活動につながるという状態がある。また、移動販売や仮設に住んでいる方と一緒に共同農園の活動をしてきて私自身が一番感じたのは、「福祉が決して制度の中にとらわれてはいけない」ということである。今後の復興に向け、さらに新たなステージにつなげられるような活動を広げていきたい。

地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：

販売という仕事をしながら、なぜ人と人をつなごうという発想になったのか。

勝沼雅典氏：

陸前高田という地域の“お互いさま精神”がすごい。つい先日もまったく知らない高齢の方が、旦那さんが先に亡くなられて一人でうちにいてつまらないということで、ふらっと来た。「お茶を飲んでいったら」と、私と一緒にしかかっている方が声をかけたら、11時～夕方6時まで、本当にお茶を飲みながら自分のたまっていた気持ちを聞いてもらっていた。そういうことを目の当たりにすると、つながりというか、誰かとかかわりたい、人に触れたいといったものが一番必要なのではないかと思った。

②泊お楽しみクラブ 藤原紀久子氏：

私たちが「泊お楽しみクラブ」を立ち上げたのは、去年の11月である。きっかけは、市が昨年4月～7月の間に全8回で行った介護予防教室の陽だまりクラブで、8回で終わることを聞いた地域の高齢者が、「これからも集まりたい」と声を上げたことである。市内はどこも同じかもしれないが、泊地区も高齢者が多く、ひとり暮らしや高齢者だけの世帯、若い人と住んでいても昼間は一人になってしまう人が多い。昨年、陽だまりクラブを開催したときは15名ほどが参加しており、泊お楽しみクラブになってからも、会員登録している方が現在35名（一番若い方で71歳、最高年齢は大正15年生まれの方）で、そのうち毎回20名～25名ほどが参加している。

この泊お楽しみクラブの活動を行ってよかった点は、参加している人同士で欠席者の情報を共有していることである。公民館での行き帰りにお互い手を引いたり、肩をかしたり、場合によっては車で送迎もしている。今まで地区行事に参加しなかった人が参加するようになり、これは大変よいことだと思っているが、課題は活動費である。

活動資金については、岩手県の高齢者社会貢献活動サポートセンターのご近所支え合い活動助成金の制度を受けた。この制度は、ご近所同士の支え合い活動などを行うことで、3年間で最大60万円まで助成を受けられるもので、今年度は30万円の申請に対して21万円ほどの助成を受けることができた。この助成金のほかに特別な行事のときには1人1,000円の会費を集めることがある。ただ、申請するための書類がとても細かく難しく、さまざまな制限もあるため、2年目の申請についてはどうしようか悩んでいる。

自分たちの健康維持と楽しみのために始めた活動だが、一人で寂しく一日を過ごすことがないように、このような場所が市内に広まり、たくさんの人が笑顔で年を重ねていけるようなまちづくりを市にもお願いしたい。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：

矢作の精米サロンだが、きょうはご本人たちが来られないということで、馬場さんと大和田さんがビデオを撮ってきてくれた。この動画を見ていただきたい。

③保健課 大和田介護予防指導員：

誰でも気兼ねなく立ち寄れる通いの場として、市内矢作町二又地区にある精米所をサロンにした「精米サロン」をご紹介します。誰ともなく集まり（男性が多い）、いつの間にか看板も掲げられ、ごく日常的な会話の中に情報交換や人との交流が自然に生まれている地域の中の居場所（通いの場）である。まず、真ん中の青い帽子の方が精米サロンの家主。右側にいる男性は、被災してみなし仮設ということで矢作に住んでいる。

次は、駐車場の奥に車が見えるが、偶然にもこの日お客様がタイミングよく来てくれた。また、部屋の中に「はまってけらいん かだってけらいん」の旗があるが、これを置いていったのは亮平先生だそうだ。先ほどの青い帽子の家主は村上さんといって 80 歳で、通称「ねこ」という、30 キロもある一輪車を軽々と持ってしまうが、まったく問題がないそうだ。

これは、精米を頼んだご夫婦が用足しから戻ってきたところである。後から、この夫婦が大きな事故に遭われた経験があり、お二人でそれを乗り越えて地域の方と交流をしていると聞いた。皆さん、米を精米しなくてもいいので、ぜひ気軽にお立ち寄りいただきたい。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：

馬場さんにフォローをお願いする。

馬場地域福祉課長補佐：

本日ここにお集まりの方々は、支援者や団体の方が非常に多いと思うが、この会議は誰でも参加していいもので、地域住民にも参加してほしいと強く考えている。通いの場について発表した3つの団体は、それぞれ別な地域で内容も異なる通いの場を創出している。皆さんも自分の地区にどのような通いの場があるのかを考えていただきたい。

これは皆さん方もご存じだと思うが、自助・互助・共助、公助がある。「自助」がはまらせん農園で、現在市内で13カ所ある。「互助」は、俗に言うボランティアや住民組織の活動、「共助」が社会保険制度及びサービス、「公助」は、福祉事業等、生活保護や人権擁護、虐待対策に分けられる。これは、資料にもあるので、持ち帰って読んでいただきたい。

きょうは、3つの団体の方々に「つながりを持ち続ける理由」ということで、キーワードを言っていた。当たり前の思い、考えを行動に移し、自分にとって必要だから、〇〇さんに必要だからという単純な思いから現在に発展しているというのは事実だと思う。今回皆さんと共有したものについて、広報紙や民児協理事会・チームけせんの和の通信でもっと知ってもらう機会を設けたり、それぞれの活動を報告し他地域・他団体と交流することによって、活動をみんなで認め合えることを目的にしたフォーラムを実施したい。また、この未来図会議を「きょういく・きょうよう」の場として、地域住民に参加していただき、「はまってかだって」をさらに発展させていきたい。

（3）グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

テーマ：つながりを持ち続けている事例から学ぶこと

・すごいね！ すばらしいね！ なぜ続いているの？ 何が大事ななの？

- ・ 次の具体的な実践につなげるには？ 自分の地域にはないかな？

1 グループ発表：保健課 蒲生恵美保健師：

すごいね、なぜ続けているの？ では、「会員がふえている」「支え合い」「一致団結している感じがある」「楽しいから」「やる気がある人がいる」「自然体だから続けられる」ということが出た。

自分の地域では、「上浜田構造改善センターでお茶っこ会をやっている」「朝日のあたる家が、誰でも気軽に通える場になっている」「近所の人にみんな自由に集っている」などが挙げられた。

2 グループ発表

すごいね、なぜ続けているの？ では、「歩いて行ける」「人とかかわりたい」「家に一人で行きたくない」「楽しいから続けているし、続けられる」「気を使わずに参加できる」「地域のまとまりが強い印象」「先に立つ人の行動力がすばらしい」「内容が楽しそう」「お互いさまでやっている印象」「芸達者が多くて楽しい」「気兼ねなく何でも話せる関係」「公営住宅に入居された方が明るく変わった」「外出することで近所のお互いの様子がわかる」などが出た。

自分の地域では、「広田町に俳句の会」「小友にノルディックウォーキングの会」「高田町に小さい畑を共同でつくっている」「朝日のあたる家」がある。

3 グループ発表：保健課 佐藤咲恵包括支援係長：

すごいね、なぜ続けているの？ では、「ワーカーズコープの特技を生かして活用すること」「田端のコミュニティが保たれ、中心になる人がすばらしい」「やっている人や見ている人がおもしろがって、楽しんでいる」「集まりたい理由がはっきりしている」「集まっているうちに楽しくなってくる。世間話が好き」などが出た。また、社協や支援者側からつくるサロンは、「業務の中で流れるようにスケジュールを組みがちだが、住民主体の場合は、きっちり計画を立てないほうがいい」「高齢者の集まりは健康に関することを聞きたい」という声が上がった。

自分の地域では、6人でお茶会を始めたところがある。私たちが無理にお膳立てしなくても自然発生的に出てくるグループはあるということだ。ほかに米崎仮設のボンジュールがあるが、そこは集団移転した方々が多いので、集まれば移転先で何かやるのではないかと期待感がある。

4 グループ発表

すごいね、なぜ続けているの？ では、「場所があることも大事」「きっかけからつなぐこと」「お金を出すことで気楽に参加できる場合と逆に行きにくくなる場合もあるが、1回の負担を減らすと楽しさがあがり続く」「できる範囲でできることだと長く続く」という話があった。

5 グループ発表

すごいね、なぜ続けているの？ では、「義務感がないのは参加しやすい」「内容に興味があり、気軽」「集う場所がある」「人とのつながりがこちよい」「顔見知りになれる」「集会所へ行く健康管理がすごい」「住民の笑顔」「一つのことを成功させる取り組みが素晴らしい」などが挙げられている。

自分の地域では、「会員制の老人クラブ」「社協提供でも仮設住宅サロン」「はまらっせん農園での交流の場」「菜園クラブが活動している」と聞いた。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：

きょうは泊お楽しみクラブの藤原さん、吉田さんにおいでいただいたので、一言ずつお願いしたい。

藤原氏：

きょうは、いろいろなことをよく知った。皆さんのやっていることはとてもすばらしかったので、これからの参考にしたい。

吉田氏：

88 歳になっても 90 歳になっても、みんな元気で集まってくれるのが本当にいいことだと思っている。

地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：

地域福祉課という新しい名称だが、通いの場づくりは地域福祉課だけでなく、いろいろな人が仕掛けなければいけないというのは何となく伝わったと思う。

高田には、仕掛けているうちに、できる人ができるときにできることをやってくれる土壌が既にある。ワーカーズコープさんたちのようにノウハウを持っている人たちが少し仕掛けると、いろいろな住民たちが集まってくる。そういうことを仕掛け続けたい。それが未来図会議の大きな狙いだということを改めて確認した。

3. その他連絡・アナウンス

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：

協働センターから「まちづくりコーディネーター育成講座」、大船渡病院の村上先生から「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016 さんりくかまいし」、「おはようさん」、「朝日のあたる家」のペーパーをいただいた。咲恵さんから一言。

保健課 佐藤咲恵包括支援係長：

8 月 10 日に「通い場づくりってどうなの、みんなが負担のない通い場をつくるのにはどうするの」という学びの会を昼と夜の部に分かれて開催する。

◇次回：平成28年8月19日（金）

メインテーマ（仮）：NPOのつよみを活かしてもらうには

…改めてNPOって？ 震災後の市内での活動の実際は？

会場：市役所第4号棟第6会議室